KENWOOD

コンパクトハイファイコンポーネントシステム

R-K1

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。
お客様の安全のため、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえご使用ください。

準備編

基本編

応用編

知識編

© B60-5650-00/00 (J) AP

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

⚠ 警告

交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流(DC)電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。
火災・感電の原因となります。

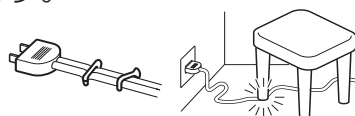
水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

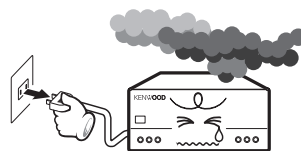
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

警告

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

注意

カセットテープ、ディスク挿入口に手を入れない

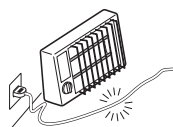
手がはさまれて、けがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

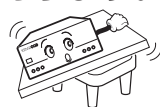
レーザー光源をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

⚠注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-"の向き)に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、基本編、応用編、知識編の4つの章に分かれています。まずはじめに「**安全上のご注意**」をよくお読みください。

準備編

お手持ちのオーディオ機器との接続のしかたや各部の名称について説明しています。お手持ちのオーディオ機器によっては接続が複雑になる恐れがあります。取扱説明書をよくお読みのうえ、それぞれの機器に接続してください。

基本編

曲の再生など、基本的な機能の操作方法を説明しています。

応用編

プログラム再生など、応用的な機能（便利な機能）の操作方法を説明しています。

知識編

「**故障かな？と思ったら**」、「**定格**」など、知っておくと便利な情報を記載してあります。

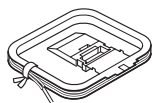
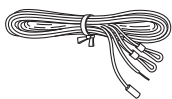
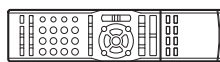
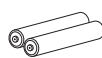
ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このシンボルマークはケンウッドにおいて環境に対する影響を軽減した商品であることをお知らせするマークです。

準備編

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

AM ループアンテナ（1個）	FM室内アンテナ（1本）	電源コード（1本）	リモートコントロールユニット（RC-RP0704：1個）	リモコン用単4形乾電池（2本）

本機の特長

CDを感動的な音で楽しむ、新世代オーディオシステム

■CDに込められた音楽信号を、美しく再現する「Supreme（サプリーム）EX」

20kHzまでの音楽信号を、40kHzまでのワイドレンジ信号へ高精度補間。
左右独立D/Aコンバーターとの組合せにより、演奏会場の空気感まで再現します。

■ノイズを徹底的に排除し、音楽信号を忠実増幅する先進技術

音楽信号の劣化を防ぐ、分離回路設計：
それぞれが音質的面で影響を与える、メカニズム部、デジタル部、アナログ部をそれぞれ分離設計。さらに、アナログ信号経路は、クロストークを防ぐため、左右独立差動回路構成としています。

安定した電源供給を可能とする3トランス構成：
「アンプ増幅回路」「CDメカ／デジタル変換回路」「制御回路」それぞれに独立したトランスを用意。もっとも大きな電力を必要とする「アンプ増幅回路」には、安定した電源供給が可能なトロイダルトランスを採用しています。アンプのファイナル段には温度追従性に優れ、低域の量感や高域の伸びやかな表現をもたらす、TRAITを採用。

CD専用ダイレクト回路：
CDの音楽信号を最短でアンプ段まで伝送するため、セレクターやトーン回路をパスし、経路を最短化するCD専用のダイレクト回路を搭載。

目次

接続のしかた

⚠ 注意

機器を設置する際には、機器に十分な放熱をさせるために下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

- 機器の上面に、放熱の妨げになるようなものを置かないでください。
- 機器の各面から、下記に示すスペースを空けてください。

上面:50cm以上　側面:10cm以上　背面:10cm以上

機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

接続上の注意

接続がすべて終了するまでは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。接続したコード、ケーブル類を抜くときは、事前に必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

マイコンの誤作動について

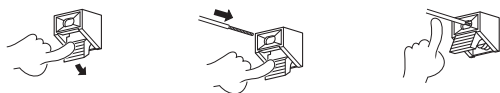
正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をするときは、「**故障かな？と思ったら**」をお読みになりマイコンをリセットしてください。(P.40参照)

アンテナの接続

アンテナを接続しないとAM、FM放送を受信できません。下記に従って正しく接続してください。

AMループアンテナの接続

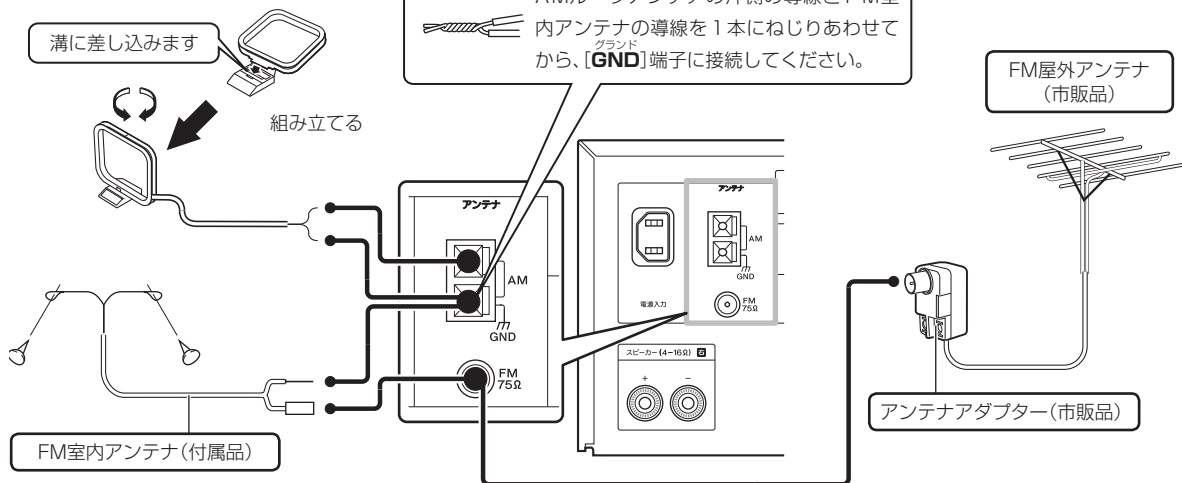
付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れた場所で、受信状態の一番よい方向に向けます。

AMループアンテナコードの取り付けかた

❶ レバーを押す　❷ コードを差し込む　❸ レバーを戻す

FM屋外アンテナ(市販品)の接続

FM放送をよりクリアーに受信するには、FM屋外アンテナを接続します。75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、[**FM75Ω**]端子に接続します。FM屋外アンテナを接続したらFM室内アンテナは取り外してください。

⚠ FM屋外アンテナ設置上の注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因になります。

FM室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、FM屋外アンテナ(市販品)の接続をお勧めします。

FM屋外アンテナを接続したら、ＦＭ室内アンテナは取り外してください。

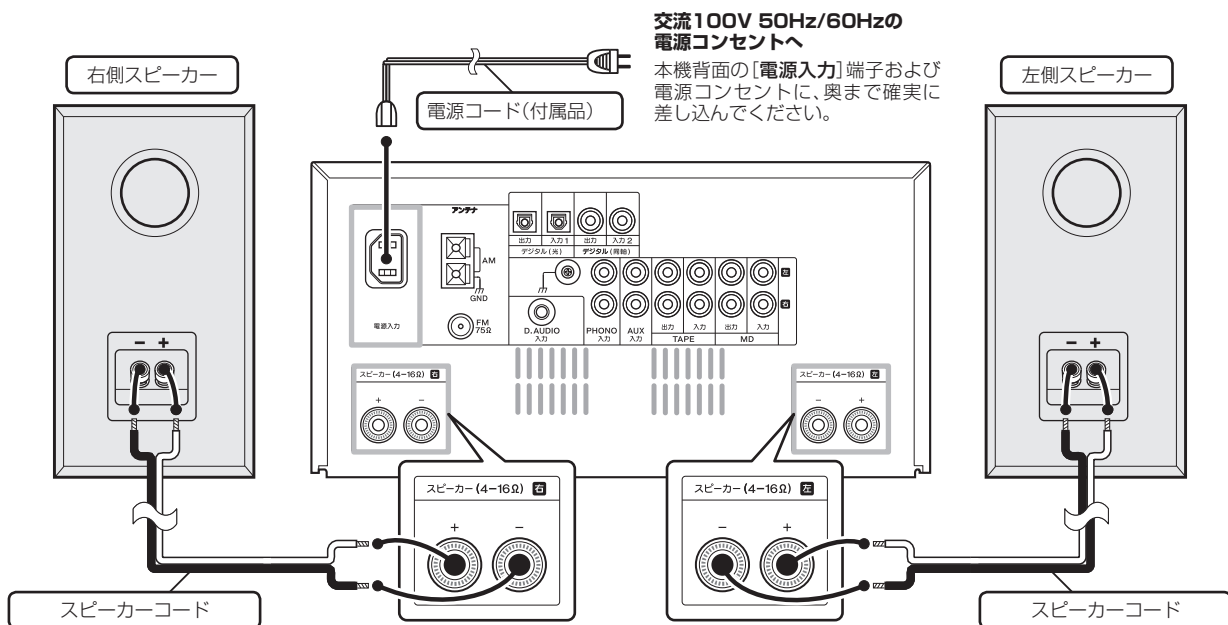
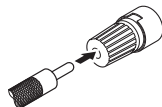
FM室内アンテナの取り付けかた

❶ アンテナ端子に接続する

❷ 受信状態のよい位置をさがす

❸ 固定する

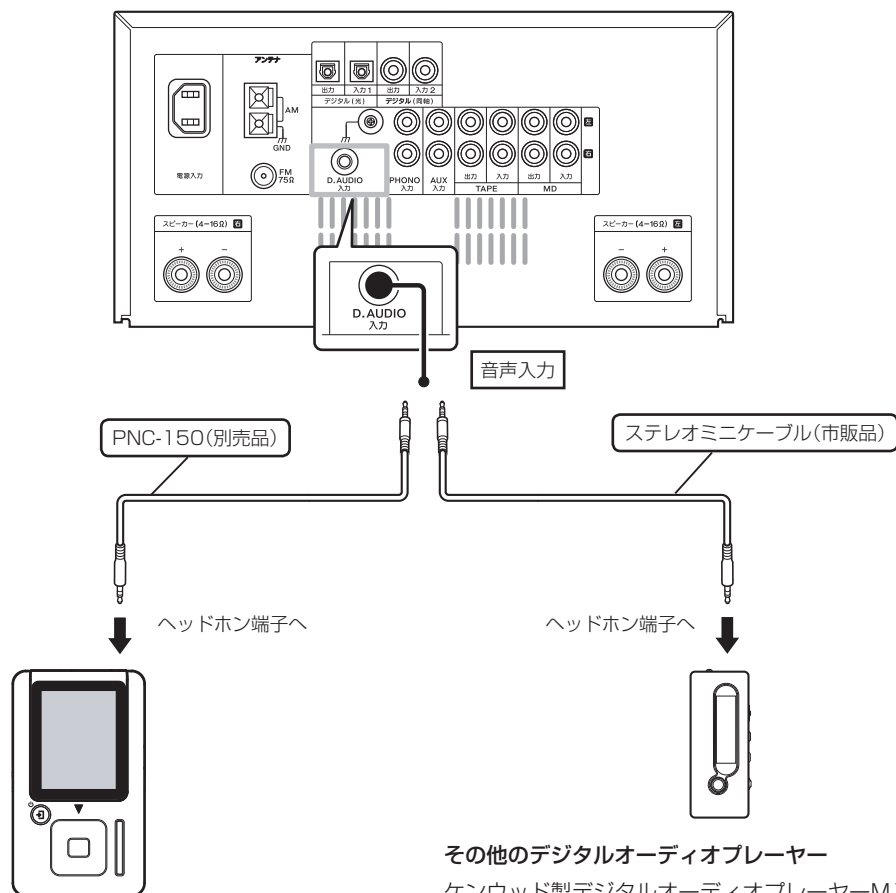
スピーカーの接続

スピーカーは、図のように接続します。

- 締めかたがたりないと、音がでないことがあります。
- 市販のプラグを使用するときは、プラグの締まりかたがゆるくなり、簡単に抜けてしまうことがあります。プラグに付属の取扱説明書をお読みになり、プラグの太さを調整してご使用ください。

- スピーカーコードの[+]と[−]は絶対にショートさせないでください。故障の原因になります。
- 極性を間違えて接続すると、楽器などの位置がはっきりしない不自然な音になります。
- すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
- スピーカーの磁気により、テレビやパソコンの画面に色ムラが発生することがあります。このときは、テレビやパソコンから少し離して置いてください。

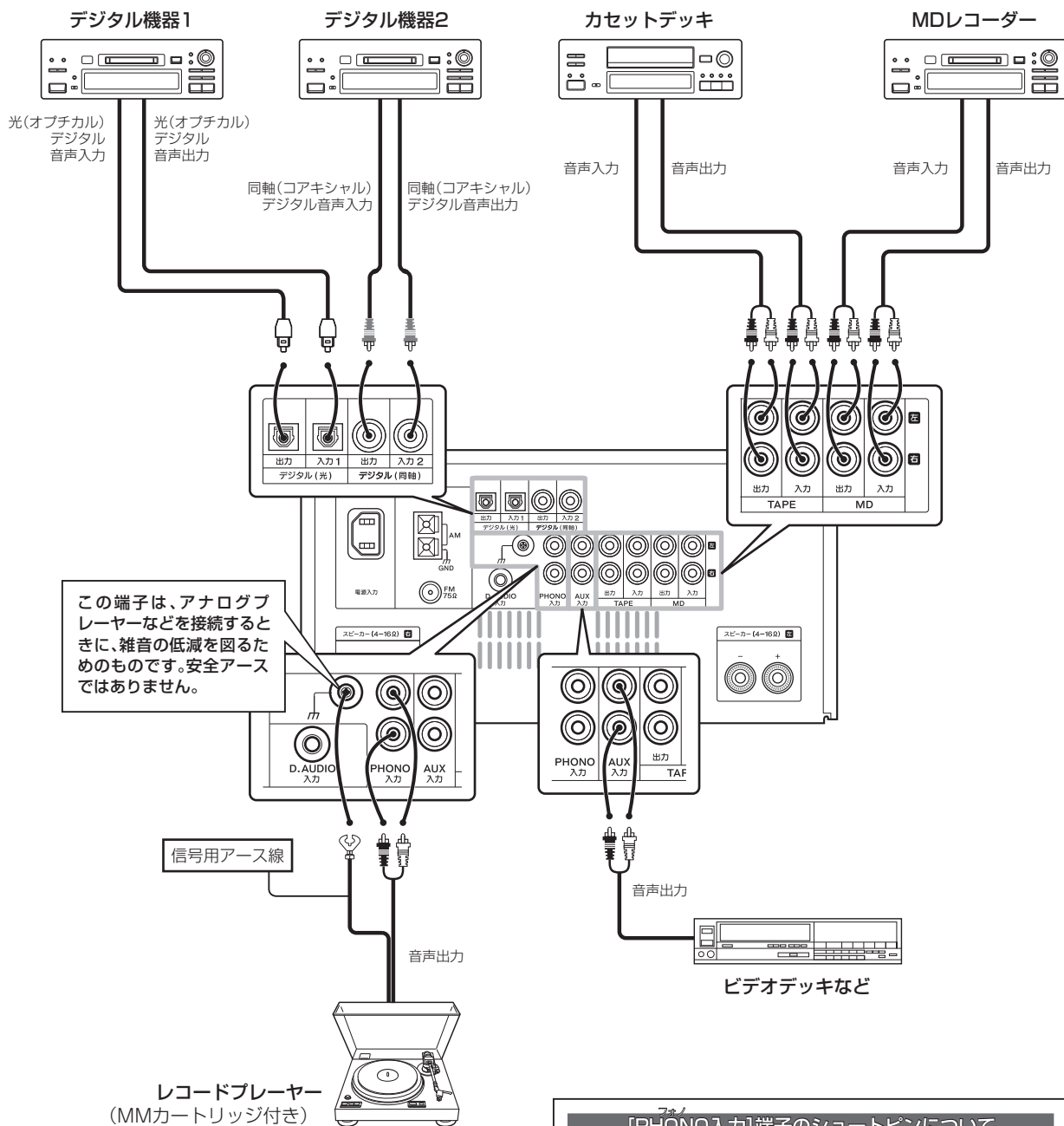
デジタルオーディオプレーヤーの接続

その他のデジタルオーディオプレーヤー

ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーM1GA3、M512A3、M256A3含む

デジタルオーディオリンク対応プレーヤー

対応機種：HD20GA7、HD30GA9、HD30GB9、HD10GB7、M1GB5、M512B5、M2GC7、M1GC7、M512C5

- 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてお読みください。
- すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
- デジタルオーディオプレーヤーを使い終わったら、接続コードを本機背面の[**D.AUDIO 入力**（デジタルオーディオ）]端子より抜いてください。

外部機器(市販品)との接続

- イコライザーアンプ内蔵のレコードプレーヤーは[**AUX入力**]端子に接続してご使用ください。
- MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを本機に直接接続することはできません。専用のイコライザーアンプをご使用になり、[**AUX入力**]端子に接続してください。

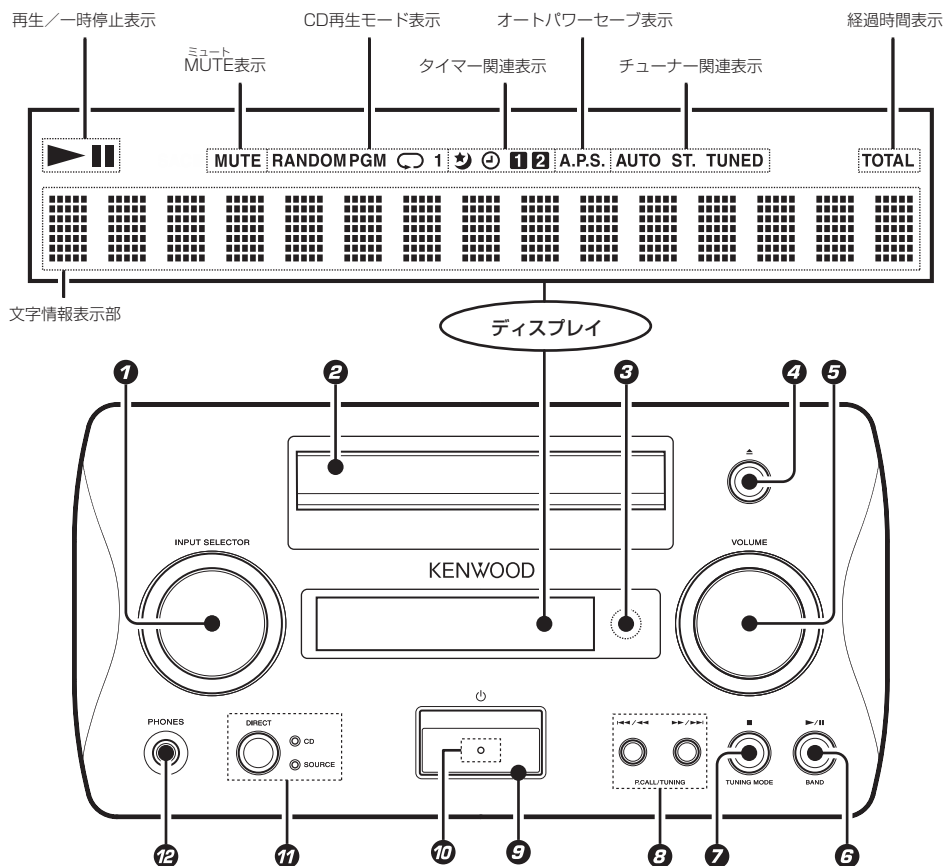
[PHONO(フォノ)入力]端子のショートピンについて

- [**PHONO(フォノ)入力**]端子にはショートピンが差し込まれています。レコードプレーヤーを接続する場合は、ショートピンを外して接続してください。外したショートピンは、なくさないように保管しておいてください。
- 外したショートピンは、出力端子に接続しないでください。

- 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてお読みください。
- すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
- 極性を間違えて接続すると、楽器などの位置がはっきりしない不自然な音になります。

準備編

各部のなまえと働き

本体

❶ **INPUT SELECTORつまみ**(P.17参照)
入力切換に使います。

❷ **CDトレイ**(P.20参照)

❸ **リモコン受光部**(P.15参照)

❹ **CDトレイ開閉(⏏)ボタン**(P.20参照)
CDトレイの開閉に使います。

❺ **VOLUMEつまみ**(P.17参照)
音量調整に使います。

❻ **►/❚❚/BANDボタン**(P.21、P.23、P.26参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**：受信バンド(FM/AM)の切り換えに使います。
➔ **入力切換が[CD]または[D.AUDIO]のとき**：再生、一時停止の切り換えに使います。

❼ **■/TUNING MODEボタン**(P.21、P.24、P.26参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**：自動受信(オート選局／ステレオ受信)とモノラル受信(マニュアル選局／モノラル受信)の切り換えに使います。
➔ **入力切換が[CD]または[D.AUDIO]のとき**：再生を止めるときに使います。
➔ **スタンバイ状態のとき**：時刻や曜日の表示に使います。

❽ **|◄◄/◄◄、►►/►►|、P.CALL/TUNINGボタン**
(P.21、P.22、P.24、P.26参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**：記憶させた放送局の呼び出し(プリセットコール)や放送局の選択に使います。
➔ **入力切換が[CD]または[D.AUDIO]のとき**：スキップ(曲を飛び越し)やサーチ(早送り、早戻し)に使います。(ボタンを１秒間以上押すと、押した方向にサーチします。ボタンを短く押すと、押した方向にスキップします。)

❾ **電源ボタン**(P.17参照)
電源のオン／スタンバイ切り換えに使います。

❿ **スタンバイ表示**(P.17参照)
赤色に点灯：通常のスタンバイ状態。
オレンジ色に点灯：タイマースタンバイ状態。

スタンバイ表示が点滅しているときは、「**故障かな？と思ったら**」をお読みください。(P.40)

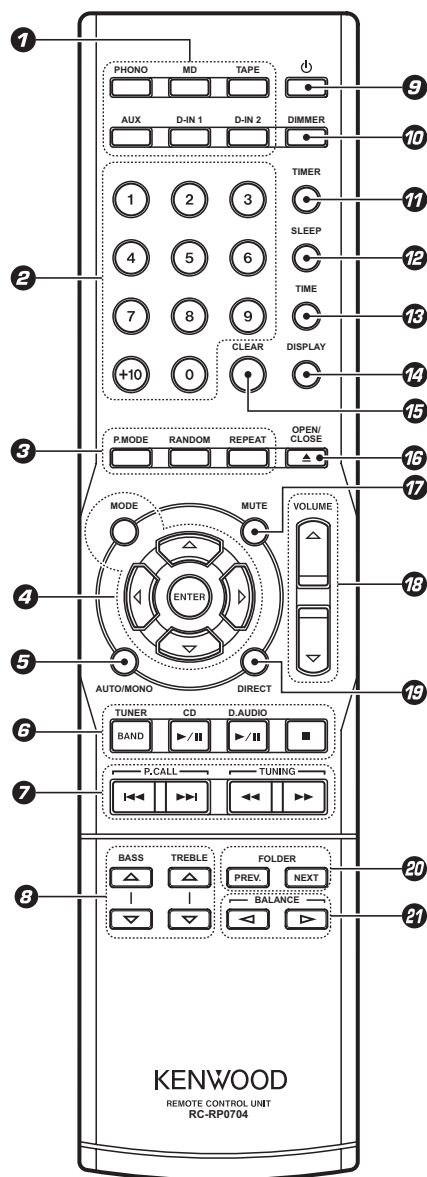
⓫ **DIRECTボタン／CD、SOURCE表示**(P.19参照)
CD/SOURCE DIRECT機能のオン／オフに使います。

⓬ **PHONES端子**(P.18参照)
ヘッドホンで聞くときに使います。

スタンバイ状態について

本機のスタンバイ表示が点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行なっています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンできます。

リモコン

本体部と同じ名前のボタンは、本体部と同じ働きをします。
*印の付いたボタンは、リモコンのみの機能です。

❶ **PHONO、MD、TAPE、AUX、D-IN 1、D-IN 2ボタン***(P.17参照)
聴きたい外部入力ソース機器の選択に使います。

❷ **数字ボタン***(P.21、P.28、P.30参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**:プリセットコール(記憶させた放送局の呼び出し)に使います。
➔ **入力切換が[CD]のとき**:曲番号やプログラム番号の選択に使います。

❸ **P.MODEボタン***(P.30参照)
トラックモード(通常の再生)とプログラムモード(曲順を並び換えて再生)の切り換えに使います。

RANDOMボタン*(P.33参照)
CDのランダム再生(曲順を順不同に再生)に使います。

REPEATボタン*(P.32参照)
CDのリピート再生(繰り返し再生)に使います。

❹ **設定モード関連ボタン**
(P.16、P.25、P.27、P.34、P.35、P.38参照)

MODEボタン*
放送局のオートプリセットやタイマー設定など、いろいろな設定に使います。

マルチコントロール(△、▽、◁、▷)ボタン*
いろいろな設定の選択に使います。

ENTERボタン*
いろいろな設定の確定に使います。

❺ **AUTO/MONOボタン**(P.26参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**:オート受信(オート選局／ステレオ受信)とモノラル受信(マニュアル選局／モノラル受信)の切り換えに使います。

❻ **TUNER/BANDボタン**(P.26参照)
入力切換を[**TUNER**]にするときに使います。
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**:受信バンド(FM/AM)の切り換えに使います。

CD ►/IIボタン(P.21参照)
入力切換を[**CD**]にするときに使います。
➔ **入力切換が[CD]のとき**:再生と一時停止の切り換えに使います。

D.AUDIO ►/IIボタン(P.23参照)
入力切換を[**D.AUDIO**]にするときに使います。
➔ **入力切換が[D.AUDIO]のとき**:再生と一時停止の切り換えに使います。

■ボタン(P.21、P.24参照)
➔ **入力切換が[CD]または[D.AUDIO]のとき**:再生を止めるときに使います。
➔ **スタンバイ状態のとき**:時刻や曜日の表示に使います。[

❼ **P.CALL/I◄◄、►►Iボタン**(P.21、P.24、P.28参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**:記憶させた放送局の呼び出し(プリセットコール)に使います。
➔ **入力切換が[CD]のとき**:スキップ(曲を飛び越し)に使います。
➔ **入力切換が[D.AUDIO]のとき**:スキップ(曲を飛び越し)やサーチ(早送り、早戻し)に使います。

TUNING/◄◄、►►ボタン(P.22、P.26参照)
➔ **入力切換が[TUNER]のとき**:周波数の選択に使います。
➔ **入力切換が[CD]のとき**:サーチ(早送り、早戻し)に使います。

❽ **BASS △、▽ボタン***(P.18参照)
バス(低音)レベル調整に使います。

TREBLE △、▽ボタン*(P.18参照)
トレブル(高音)レベル調整に使います。

❾ **電源ボタン**(P.17参照)
電源のオン／スタンバイ切り換えに使います。

⑩ **DIMMERボタン***(P.19参照)
ディスプレイの明るさの切り換えに使います。

⑪ **TIMERボタン***(P.38参照)
プログラムタイマーの実行モード選択に使います。

⑫ **SLEEPボタン***(P.38参照)
おやすみタイマーの設定に使います。

⑬ **TIMEボタン***(P.22参照)
CDの時間表示切り換えに使います。

⑭ **DISPLAYボタン***(P.22、P.24、P.28、P.34参照)
ディスプレイの表示内容の切り換えに使います。

⑮ **CLEARボタン***(P.29、P.31参照)
プログラム番号やプリセット番号の削除などに使います。

⑯ **OPEN/CLOSE ≜ボタン**(P.20参照)
CDトレイの開閉に使います。

⑰ **MUTEボタン***(P.19参照)
一時的な消音に使います。

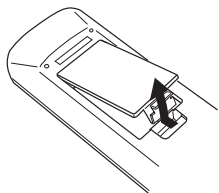
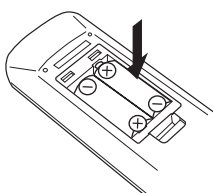
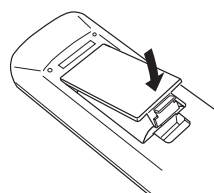
⑱ **VOLUME(△、▽)ボタン***(P.17参照)
音量調整に使います。

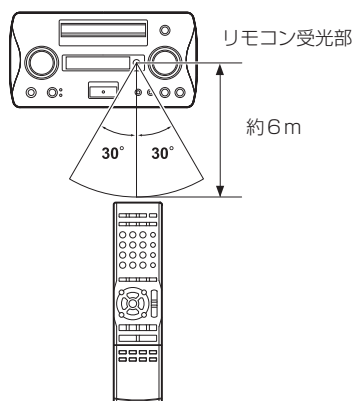
⑲ **DIRECTボタン**(P.19参照)
CD/SOURCE DIRECT機能のオン／オフに使います。

⑳ **FOLDER PREV.、NEXTボタン***(P.24参照)
➔ **入力切換が[D.AUDIO]のとき**:ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーのフォルダ選択に使います。

㉑ **BALANCE ◁、▷ボタン***(P.19参照)
バランス調整に使います。

電池の入れかた

❶ ふたを開ける

❷ 電池を入れる

❸ ふたを閉める

- 単4形乾電池2本を極性マークに従って入れる。

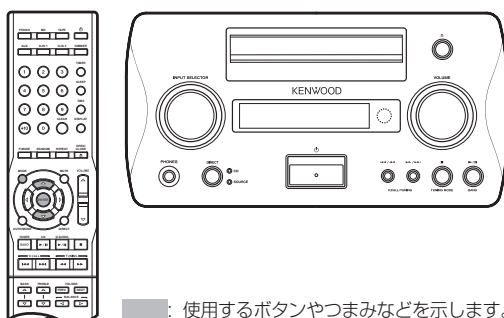
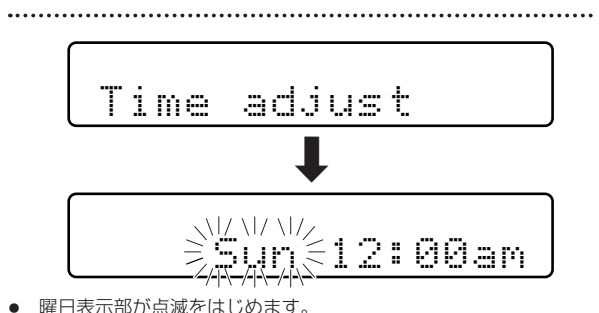
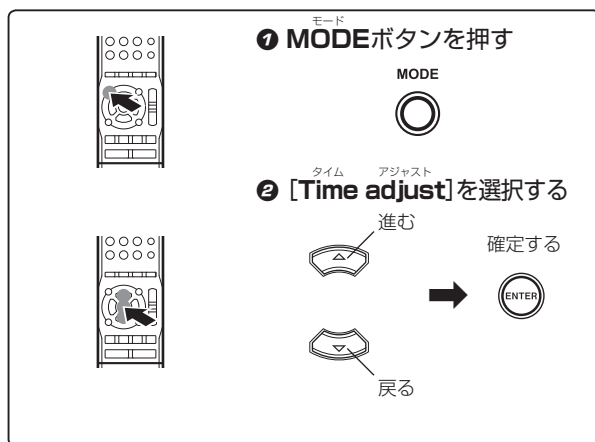
操作のしかた

本機の電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの電源ボタンを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいボタンを押します。

- リモコンの各操作ボタンを押してから次のボタンを押すときは、約1秒間以上の間隔をあけて確実に押してください。
- 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
- 操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。
- リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このようなときは、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

時刻合わせ

本機には、時計機能がついています。タイマーを使うときに必要となるので、あらかじめ時刻合わせを済ませてください。

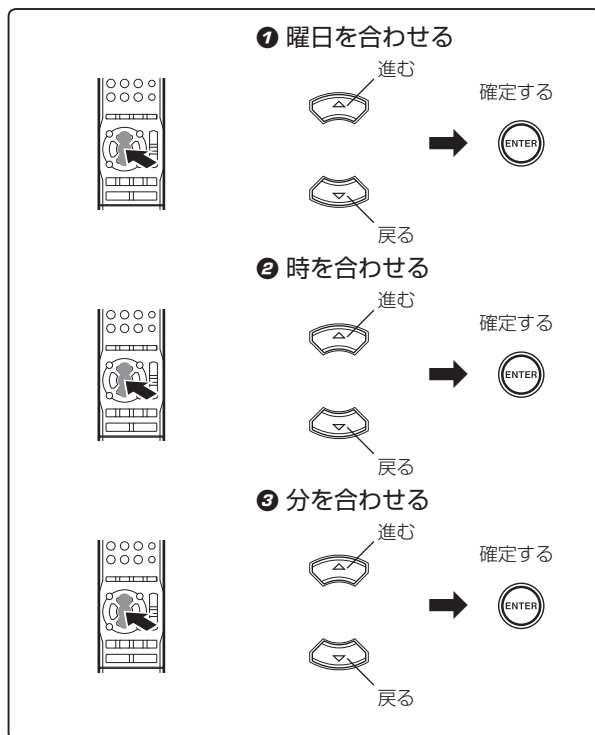
準備しましょう

電源ボタンを押して、電源をオンにする。

1 時刻合わせモードにする

- 曜日表示部が点滅をはじめます。

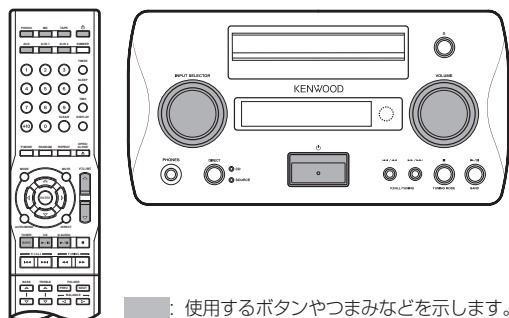
2 曜日と時刻を合わせる

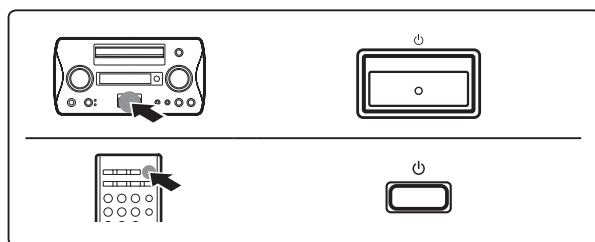
月曜日の午後8時45分に合わせるとき:

- **ENTER**ボタンを押すと曜日が確定され、時表示部が点滅をはじめます。

Mon 8:00pm

- 時刻は12時間表示で表示されます。
- **ENTER**ボタンを押すと時が確定され、分表示部が点滅をはじめます。
- 間違えて**ENTER**ボタンを押したときは、マルチコントロール(◁)ボタンを押して1つ前の設定に戻り、設定内容を直します。

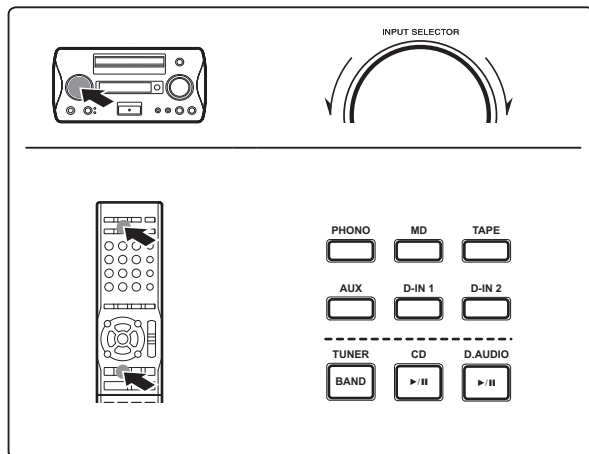
- 時報と同時に**ENTER**ボタンを押すと、正確な時刻合わせができます。
- 電源がオフ(スタンバイ状態)のときに**■/TUNING MODE**ボタンを押すと、現在の時刻やプログラムタイマー予約のオン／オフが約5秒間表示されます。

基本的な使いかた

: 使用するボタンやつまみなどを示します。

1 電源をオンにする

押すたびに機能が切り換わります。

① スタンバイ表示点灯：電源がオフ（スタンバイ状態）になります。
② スタンバイ表示消灯：電源がオンになります。

- リモコンの**TUNER(チューナー)/BAND(バンド)**、**CD ►/II**、**D.AUDIO(デジタルオーディオ) ►/II**ボタンや入力切換ボタン（**PHONO(フォノ)**、**MD**、**TAPE(テープ)**、**AUX**、**D-IN 1(デジタルイン)**、**D-IN 2(デジタルイン)**）を押しても、電源がオンになり再生（受信）できます。

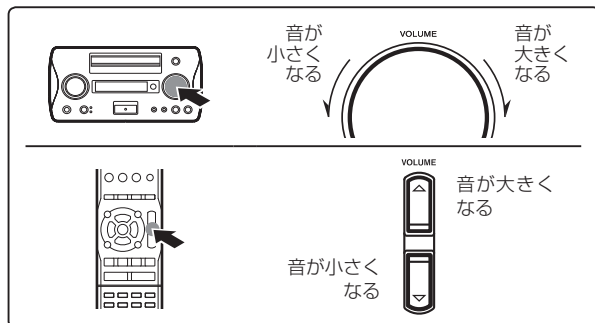
2 聴きたいソースを選択する

回すたびに機能が切り換わります。

① [**TUNER(チューナー)**]
② [**CD**]
③ [**D.AUDIO(デジタルオーディオ)**]
④ [**PHONO(フォノ)**]
⑤ [**MD**]
⑥ [**TAPE(テープ)**]
⑦ [**AUX**]
⑧ [**D-IN1(デジタルイン) (OPT)(オプチカル)**]*
⑨ [**D-IN2(デジタルイン) (COAX)(コアキシャル)**]*

入力された信号のサンプリング周波数

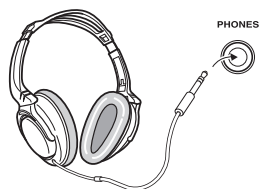
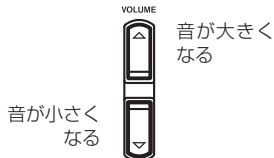
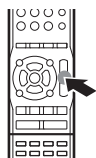
* 本機で再生できるデジタル信号は、PCM（32kHz〜96kHz）です。

3 選んだソースを再生する

- 「**CDを聞く**」(P.20参照)
- 「**ラジオを聞く**」(P.26参照)

4 音量を調整する

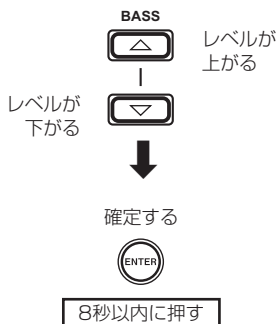
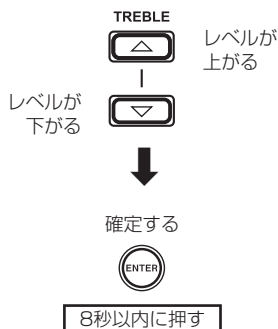
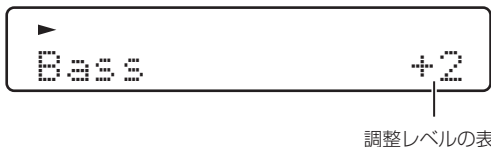
音量の表示

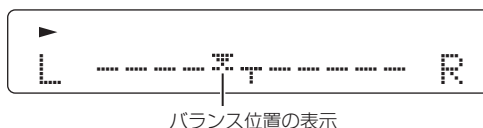
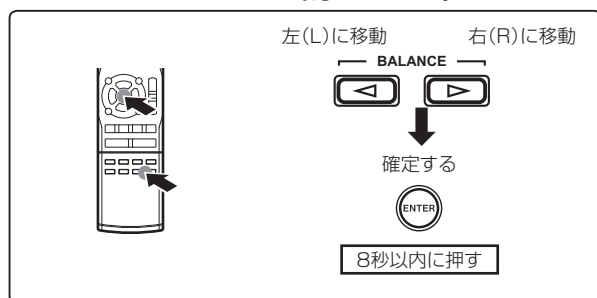
- 音量が−30dB以上になると、0.5（dB）ステップでのより細かな音量調整ができます。

ヘッドホンで聞く

- ステレオミニプラグ付きのヘッドホンをご使用ください。
- **PHONES**端子にプラグを差し込むと、スピーカーから音が出なくなります。

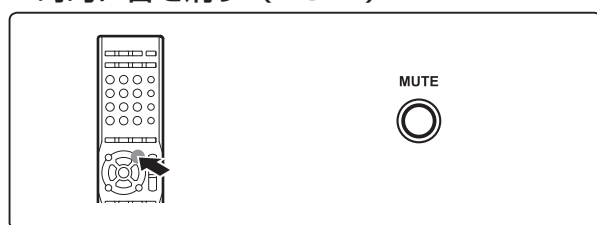
音質を調整する（BASS/TREBLE）

低音域を調整するとき：

調整レベルの表示

- **BASS**ボタンまたは**TREBLE**ボタンを１回押すと、現在の状態が表示されます。（表示中8秒以内に操作してください。）
- –5（dB）から+5（dB）まで1（dB）ステップで調整できます。
- SOURCE DIRECT機能がオンのときは、**BASS**ボタンまたは**TREBLE**ボタンで音質調整ができません。（P.19参照）

スピーカーバランスを調整する（BALANCE）

バランス位置の表示

- BALANCEボタンを1回押すと、現在の状態が表示されます。(表示中8秒以内に操作してください。)
- ヘッドホンで聴いているときは、バランス位置の調整ができません。

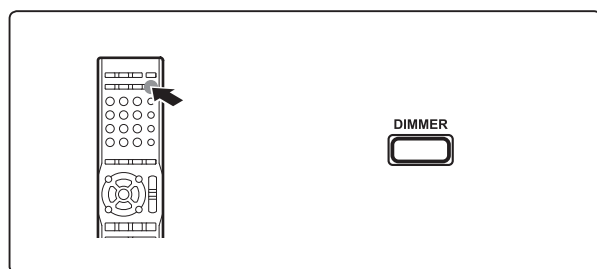
一時的に音を消す（MUTE）

押すたびに機能が切り換わります。

① [**MUTE**]表示点滅：MUTE機能オン

② [**MUTE**]表示消灯：MUTE機能オフ（解除）

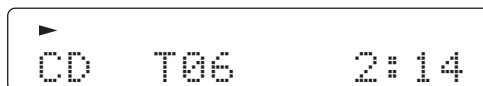
- 解除すると、元の音量に戻ります。
- 音量を調整したときも、解除されます。

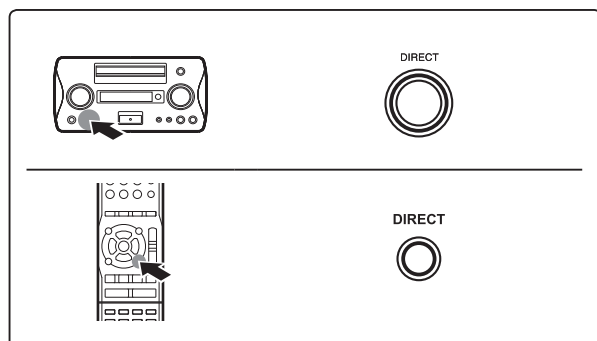
ディスプレイの明るさを切り換える（DIMMER）

ディスプレイの明るさを3段階で切り換えできます。

押すたびに機能が切り換わります。

① 暗く表示されます。

② 更に暗く表示されます。

③ DIMMER機能オフ（解除）

高音質な音で聞く(SOURCE DIRECT)

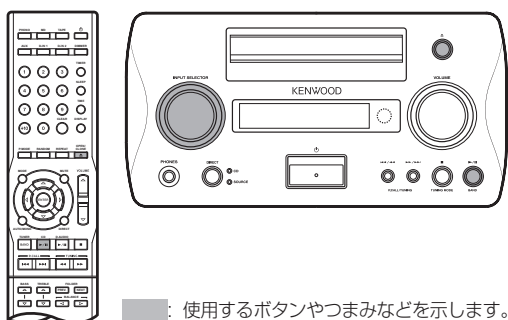
CDや接続した外部ソース機器を音質調整回路（バス、トレブル）を通らない、より高音質な音で楽しめます。

押すたびに機能が切り換わります。

① [**CD**]または[**SOURCE**] 表示点灯：
SOURCE DIRECT機能オン

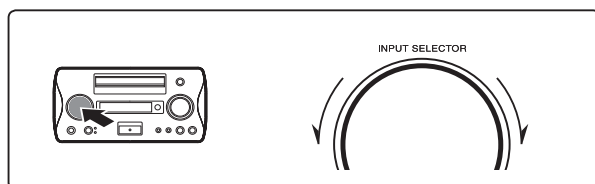
② [**CD**]または[**SOURCE DIRECT**] 表示消灯：
SOURCE DIRECT機能オフ（解除）

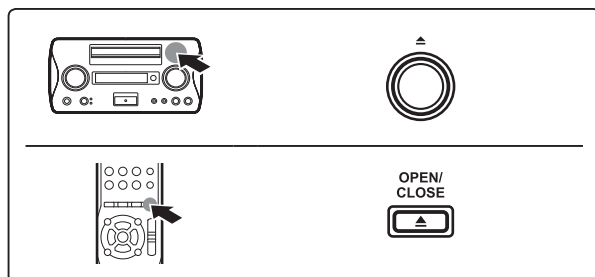
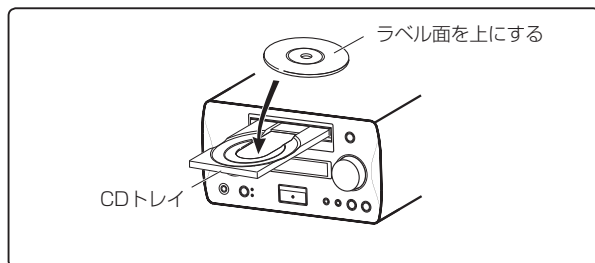
- 録音中はSOURCE DIRECT機能のオン／オフを切り換えないでください。
- SOURCE DIRECT機能がオンのときは、**BASS**ボタンまたは**TREBLE**ボタンで音質調整ができません。

CDを聞く

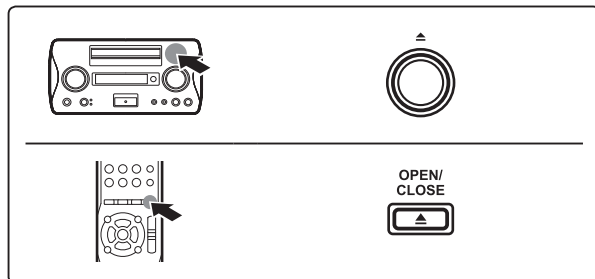
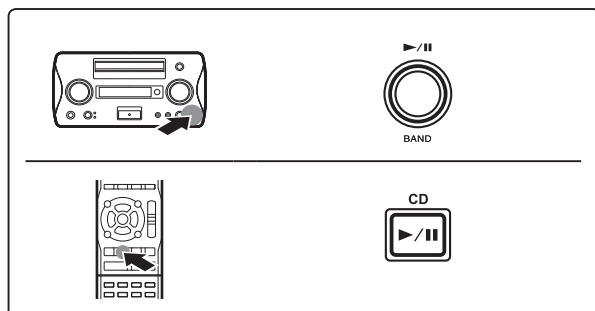
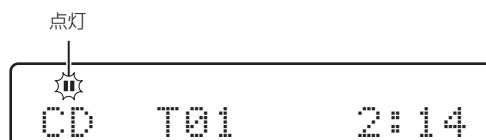
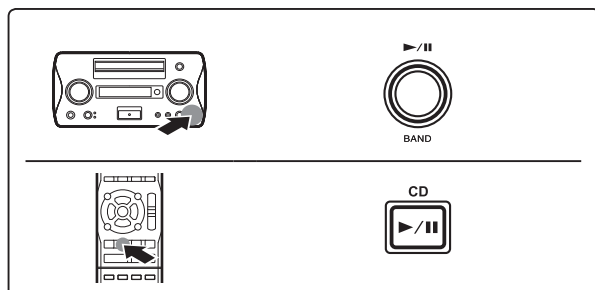
CDを1曲目から、そのままの曲順で聞くときの使いかたです。

: 使用するボタンやつまみなどを示します。

1 入力切換を[CD]にする

CD

- ディスクが入っているときに、リモコンの**CD ▶/II**ボタンを押すと、入力切換が[**CD**]に切り換わり再生がはじまります。

2 トレイを開ける

3 ディスクを入れる

- 再生面には触れないようにします。
- ディスクを2枚重ねて入れると、故障の原因になります。
- ディスクはCDトレイの溝にあわせて、正しく置いてください。（ディスクをずらして置くと故障の原因になります。）
- シングルCD（8cm）にも対応しています。
- 市販のCDシングル（8cm）ディスクアダプターは、本機では使用できません。

4 トレイを閉める

基本編

5 再生する

再生／一時停止する

- 押すたびに一時停止と再生が切り換わります。

再生を止める

曲を飛び越す（スキップ）

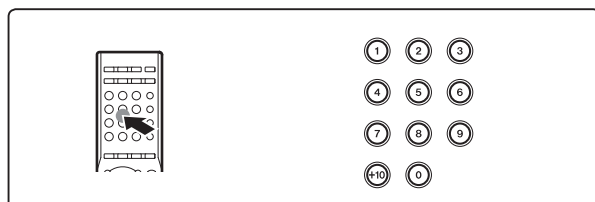
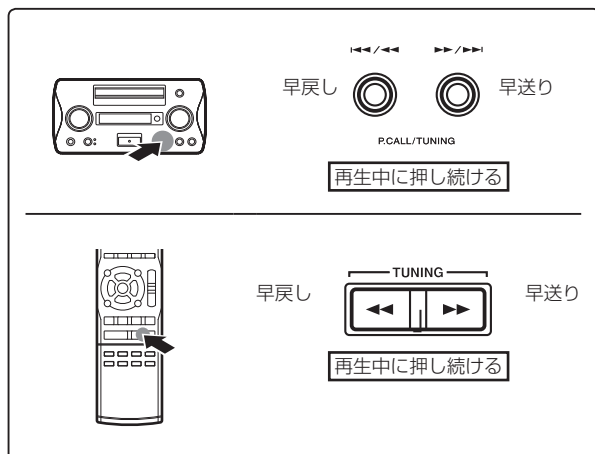
- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中にI◄◄ボタンを1回押すと、再生している曲の最初に戻ります。

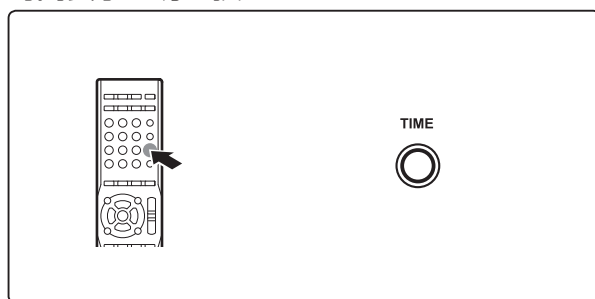
好きな曲から聞く

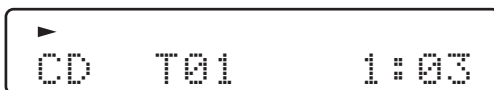
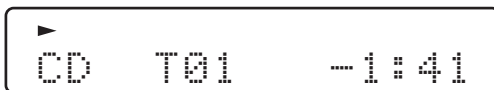
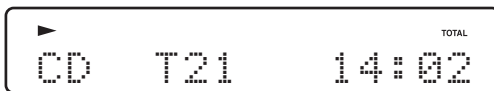
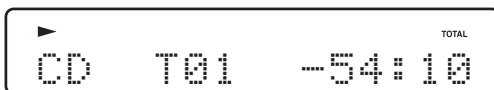
数字ボタンを押すとき：

曲番が[15]のとき：+10、5

曲番が[20]のとき：+10、+10、0

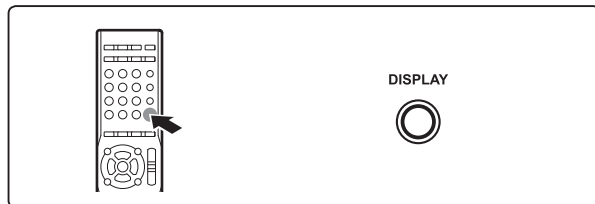
基本編

早送り／早戻しする（サーチ）

- 再生中に1秒以上押し続けます。指を放すと、通常の再生に戻ります。

時間表示を切り換える

押すたびに機能が切り換わります。

① 再生中の曲の経過時間

② 再生中の曲の残り時間

③ ディスク全体の経過時間

④ ディスク全体の残り時間

- プログラム再生中は、④、①、②、③の順番で表示されます。（P.30参照）
- 1曲リピート再生中またはランダム再生中は、①、②のみ表示されます。（P.32、P.33参照）

ディスプレイを切り換える

CD-TEXT（テキスト）対応ディスクのタイトル表示について

本機では、CD-TEXT（テキスト）対応ディスクを再生するとCDに収録されたディスクタイトルと曲のタイトル（アルファベットや数字の場合）が自動的に表示されます。

押すたびに機能が切り換わります。

① CD-TEXT（テキスト）対応ディスクのタイトル表示
（CD-TEXT（テキスト）対応ディスクを再生中は曲のタイトルが、停止中はディスクタイトルが表示されます。

② 曲番号の表示

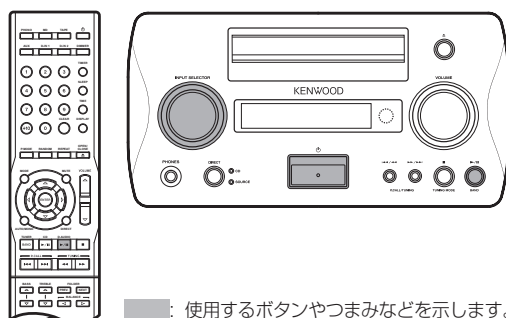
③ 曜日と時刻の表示

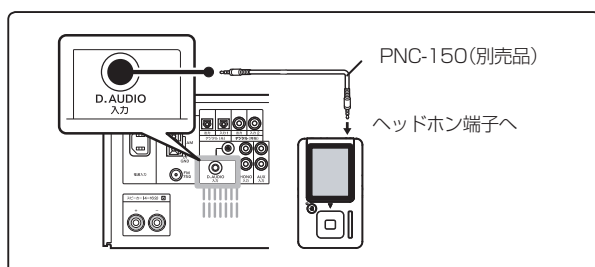
- 通常のCDや表示する文字情報がないときは、①を選べません。
- CD-TEXT（テキスト）対応ディスクでも表示できないものもあります。ディスクに収録された文字情報が約1500文字を超えると[**CD Text full**（テキスト フル）]と表示されます。

基本編

デジタルオーディオプレーヤーからの音を聞く

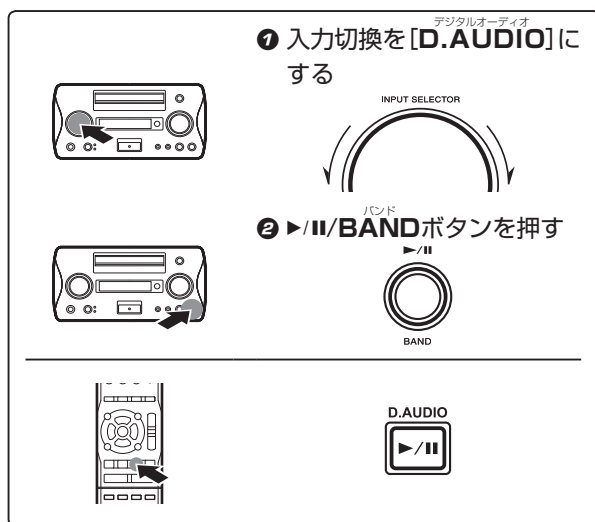
ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーを別売品の専用ケーブル（PNC-150）で本機と接続すると、本機やリモコンで操作できます。

　　：使用するボタンやつまみなどを示します。

デジタルオーディオプレーヤーを操作する

1 デジタルオーディオプレーヤーを接続する

本機とデジタルオーディオプレーヤーの電源はオフの状態で接続してください。

- 別売品の専用ケーブル（PNC-150）で本機背面の[D.AUDIO入力]端子とデジタルオーディオプレーヤーのヘッドホン端子を接続します。
- デジタルオーディオプレーヤーを使い終わったら、接続コードを抜いてください。
- 市販品のミニステレオプラグケーブルで接続したときは、音を聞くことはできますが本機やリモコンでの操作はできません。

2 本機とデジタルオーディオプレーヤーの電源をオンにする

3 再生する

- リモコンのD.AUDIO ►/❚❚ボタンを押すと、入力切換が[D.AUDIO]に切り換わり再生がはじまります。

再生／一時停止する

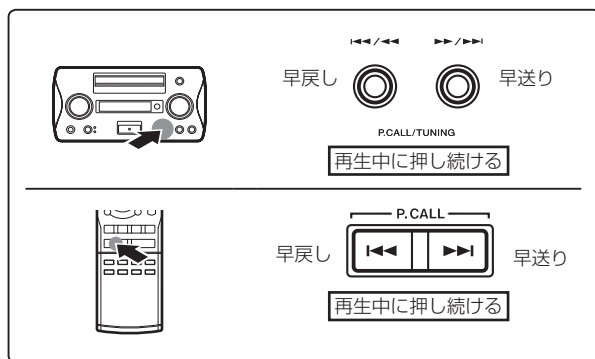
- 押すたびに一時停止と再生が切り換わります。

基本編

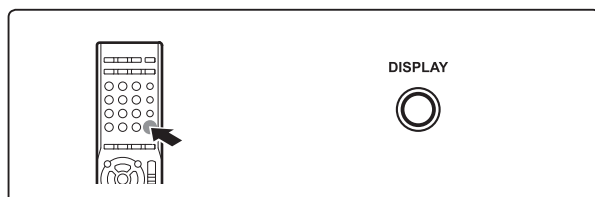
再生を止める

曲を飛び越す（スキップ）

- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に⏮ボタンを1回押すと、再生している曲の最初に戻ります。

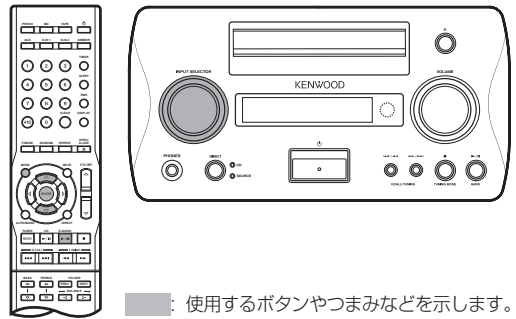
早送り／早戻しする（サーチ）

- 再生中に１秒以上押し続けます。指を放すと、通常の再生に戻ります。

フォルダを飛び越す

ディスプレイを切り換える

押すたびに機能が切り換わります。

① 入力切換の表示

② 曜日と時刻の表示

[D.AUDIO入力]端子に接続されたデジタルオーディオプレーヤーからの入力レベルを調整できます。CDと同じくらいの大きさで聞こえるよう必要に応じて調整してください。

: 使用するボタンやつまみなどを示します。

デジタルオーディオプレーヤーの入力レベルを調整する

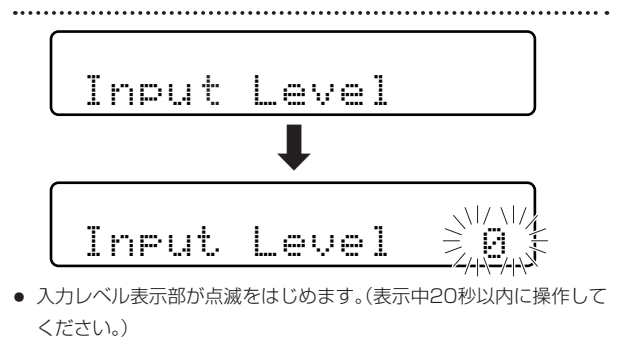
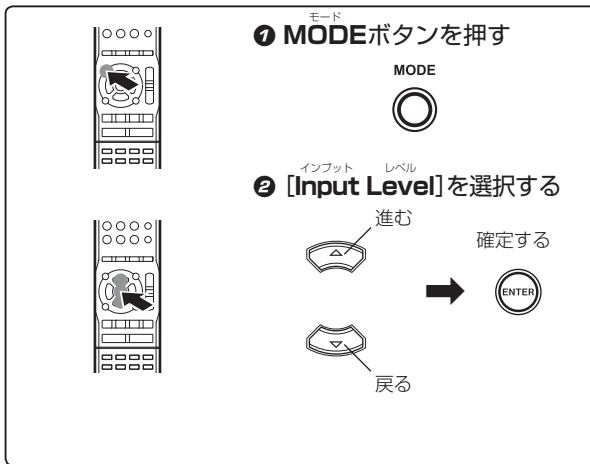
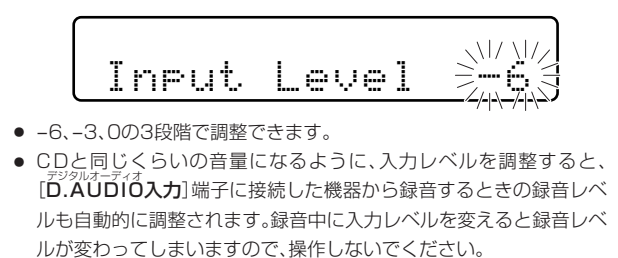
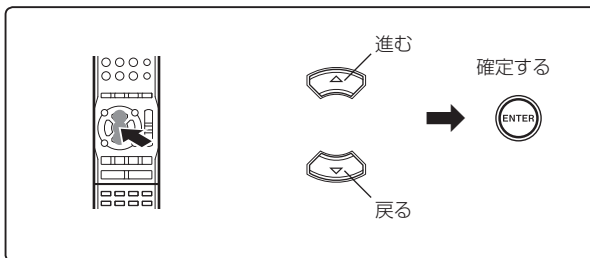
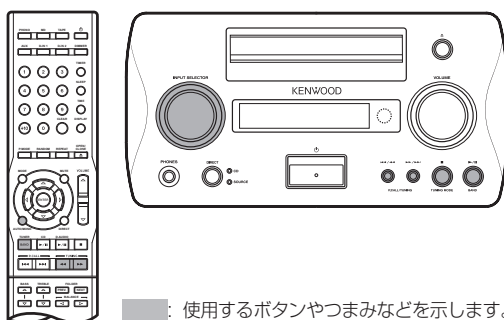
1 「デジタルオーディオプレーヤーからの音を聞く」の手順1から手順2を操作する(P.23参照)

2 入力レベル調整モードにする

- 入力レベル表示部が点滅をはじめます。(表示中20秒以内に操作してください。)

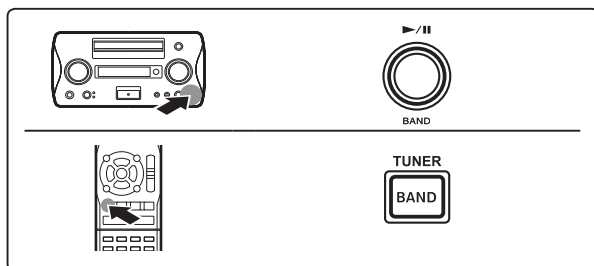
3 入力レベルを調整する

Input Level -6

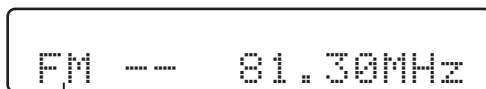
- –6、–3、0の3段階で調整できます。
- CDと同じくらいの音量になるように、入力レベルを調整すると、[D.AUDIO入力]端子に接続した機器から録音するときの録音レベルも自動的に調整されます。録音中に入力レベルを変えると録音レベルが変わってしまいますので、操作しないでください。

ラジオを聞く

: 使用するボタンやつまみなどを示します。

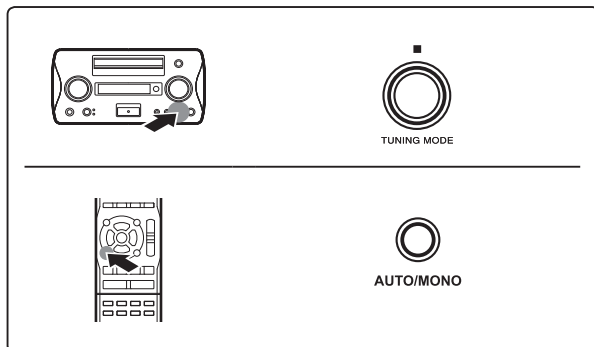
ラジオを受信する

1 入力切換を[TUNER(チューナー)]にする

2 FM/AMのどちらかを選択する

押すたびに機能が切り換わります。

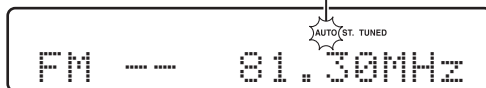
① [FM]

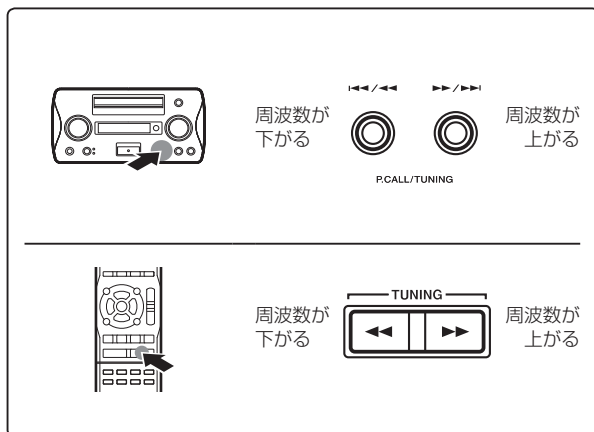
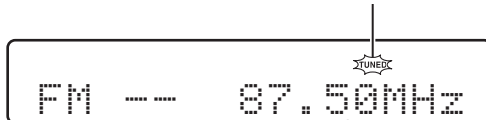
② [AM]

受信バンドの表示

3 選局方法を選択する

押すたびに機能が切り換わります。

① [AUTO(オート)]表示点灯: オート選局／ステレオ受信

② [AUTO(オート)]表示消灯: マニュアル選局／モノラル受信

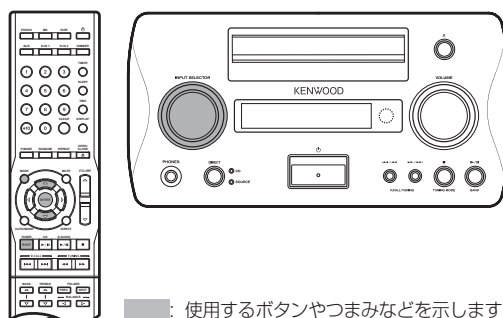
オート選局／ステレオ受信時に点灯

- 通常はAUTO(オート)(オート選局／ステレオ受信)にしておきます。
- 電波が弱く雑音が多いときは、マニュアル選局モノラル受信にします。FM放送の音声はモノラルになりますが聴きやすくなります。

4 放送局を選択する

放送局を受信すると点灯

周波数の表示

オート選局のとき: ボタンを1回押すと、自動的に次の放送局を受信します。

マニュアル選局のとき: ボタンを押し続けると、周波数が連続的に変わり、ボタンを放した場所で止まります。

お住まいの都道府県名を登録すると、お住まいの近くで受信できる放送局が自動的にプリセット(記憶)されます。
これらの放送局を受信すると、放送局名を表示できます。(FM 放送のみ)
「**放送局名自動表示リスト**」(P.28参照)

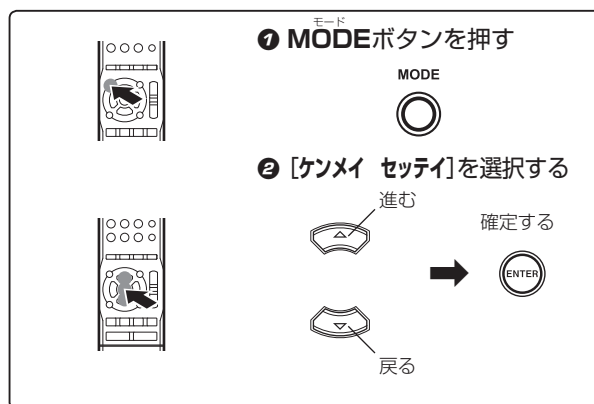
- オートプリセットはFMおよびAMの放送局をあわせて、最大40局まで登録します。放送局名表示は放送局名リストに載っている放送局のみに対応しています。

：使用するボタンやつまみなどを示します。

放送局を自動で記憶させる(オートプリセット)

1 入力切換を[TUNER(チューナー)]にする

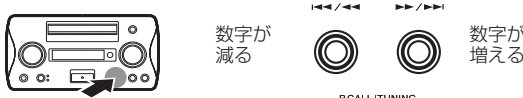
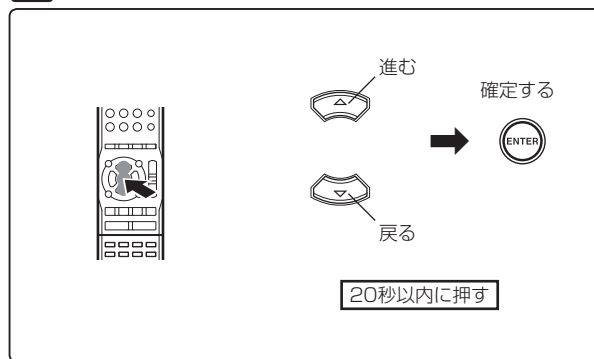
2 オートプリセットモードにする

ケンメイ　セッテイ

- 都道府県名を登録してないときは、[**ケンメイ　ミセッテイ**]と表示されます。(表示中20秒以内に操作してください。)
- お住まいの都道府県が変わったときは、もう一度設定し直してください。

3 お住まいの都道府県名を選択し、オートプリセットを開始する

- 都道府県名は、アイウエオ順に並んでいます。
- オートプリセットを行うと、今まで記憶していた放送局が新しい記憶内容に変更されます。

オートプリセット中

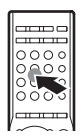
AUTO ST. TUNED
InterFM

オートプリセット後、最初に記憶させた放送局名を表示

希望の放送局名が表示されないとき

放送地域によって、周波数が同じでも放送局名が違うことがあります。希望する放送局名が表示されないときは、**P.MODE**(プレイ モード)ボタンを押すと、放送局名を変更できます。

- 希望する放送局名が、放送局名リストにないときには、**P.MODE**(プレイ モード)ボタンを押しても、表示は変化しません。周波数表示に戻したいときは、**DISPLAY**(ディスプレイ)ボタンを押してください。

- お住まいの地域によっては、選局された放送局が良好に受信できないことがあります。
- 受信中の周波数の放送局名が登録されていないときは、周波数が表示されます。
- オートプリセットで記憶できる放送局は、お住まいの都道府県と近接する都道府県の放送局のみです。その他の放送局はマニュアルプリセットで記憶します。(P.29参照)
- ケーブルテレビなどのアンテナを本機に接続したときは、放送局が正しく表示されないことがあります。

記憶させた放送局を受信する（プリセットコール）

記憶させた放送局を順に呼び出す

数字が減る
数字が増える

数字が減る　数字が増える

P.CALL ►►I ボタンを押すと、次のように切り換わります。

01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40

P.CALL I◄◄ ボタンを押すと、次のように切り換わります。

01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40

- ボタンを押し続けると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。

記憶させた放送局を指定して呼び出す

数字ボタンを押すとき:

プリセット番号が[15]のとき: +10、5

プリセット番号が[20]のとき: +10、+10、0

放送局名自動表示リスト

都道府県名	放送局	表示名
	NHK - FM	NHK - FM
愛知県	㈱エフエム愛知	FM AICHI
愛知県	㈱ZIP - FM	ZIP - FM
愛知県	愛知国際放送㈱	RADIO-i
青森県	㈱エフエム青森	FMアオモリ
秋田県	㈱エフエム秋田	FMアキタ
石川県	㈱エフエム石川	FM ISHIKAWA
岩手県	㈱エフエム岩手	FM IWATE
愛媛県	㈱エフエム愛媛	FMエヒメ
大分県	㈱エフエム大分	FM OITA
大阪府	㈱FM802	FM802
大阪府	㈱エフエム大阪	fm osaka
大阪府	関西インターメディア㈱	FM CO·CO·LO
岡山県	岡山エフエム放送㈱	FMオカヤマ
沖縄県	AFN沖縄	AFNオキナワ
沖縄県	㈱エフエム沖縄	FM Okinawa
	NHK第一	NHKラジオ１
香川県	㈱エフエム香川	FMカガワ
鹿児島県	㈱エフエム鹿児島	ミューFM
神奈川県	横浜エフエム放送㈱	Fm yokohama
岐阜県	岐阜エフエム㈱	Radio 80
京都府	㈱エフエム京都	FMキョウト
熊本県	㈱エフエム熊本	FMK
群馬県	㈱エフエム群馬	FM GUNMA
高知県	㈱エフエム高知	FM KOCHI
埼玉県	㈱FM NACK5	NACK5
佐賀県	㈱エフエム佐賀	FMサガ
滋賀県	㈱エフエム滋賀	e-radio
静岡県	静岡エフエム放送㈱	K-MIX

都道府県名	放送局	表示名
島根県	㈱エフエム山陰	fm-sanin
千葉県	㈱ベイエフエム	bayfm
東京都	エフエムインターウェーブ㈱	InterFM
東京都	㈱J-WAVE	J-WAVE
東京都	㈱エフエム東京	TOKYO FM
東京都	放送大学	ホウソウダイガク
徳島県	㈱エフエム徳島	FMトクシマ
栃木県	㈱エフエム栃木	RADIO BERRY
富山県	富山エフエム放送㈱	FMトヤマ
富山県	北日本放送㈱	KNBラジオ
長崎県	㈱エフエム長崎	Smile-FM
長野県	長野エフエム放送㈱	FM NAGANO
新潟県	㈱エフエムラジオ新潟	FM-NIIGATA
新潟県	新潟県民エフエム放送㈱	FM PORT
兵庫県	㈱Kiss - FM KOBE	Kiss - FM
広島県	広島エフエム放送㈱	ヒロシマFM
福井県	福井エフエム放送㈱	FMFUKUI
福岡県	㈱エフエム九州	CROSS FM
福岡県	㈱エフエム福岡	fm fukuoka
福岡県	㈱九州国際エフエム	Love FM
福島県	㈱エフエム福島	フクシマFM
北海道	㈱エフエム·ノースウェーブ	NORTH WAVE
北海道	㈱エフエム北海道	AIR G'
三重県	三重エフエム放送㈱	Radio3 FMミエ
宮城県	㈱エフエム仙台	Date fm
宮崎県	㈱エフエム宮崎	JOY FM
山形県	㈱エフエム山形	BOY FM
山口県	㈱エフエム山口	FMヤマグチ
山梨県	㈱エフエム富士	FM-FUJI

- 放送局名は変更されることがあります。

ディスプレイを切り換える

押すたびに機能が切り換わります。

① 放送局名の表示

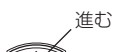
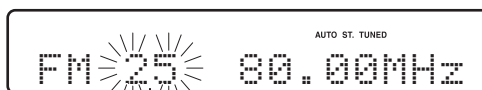
② プリセット番号と周波数の表示

③ 曜日と時刻の表示

- 表示する放送局名がないときは、放送局名の表示は選べません。

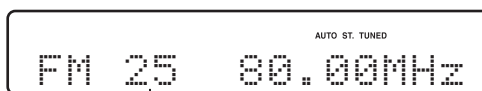
基本編

放送局を1局ずつ記憶させる(マニュアルプリセット)

お好みの放送局だけを選んで1局ずつプリセットすることもできます。

記憶先のプリセット番号

- リモコンの数字ボタンを押すと、プリセット番号を直接入力できます。
  数字ボタンを押すとき:
  プリセット番号が[15]のとき:+10、5
  プリセット番号が[20]のとき:+10、+10、0
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。
- 最大40局まで放送局を記憶できます。

記憶させた放送局を消す

記憶させた放送局を選んで1局ずつ消去できます。

- プリセット番号40に記憶された放送局は消去できません。

プリセット番号11の「■■ 局」を消去するとき:

消去する放送局

後ろのプリセット番号が前に繰り上がります。

空いたプリセット番号には自動的にFM76MHzが記憶されます。

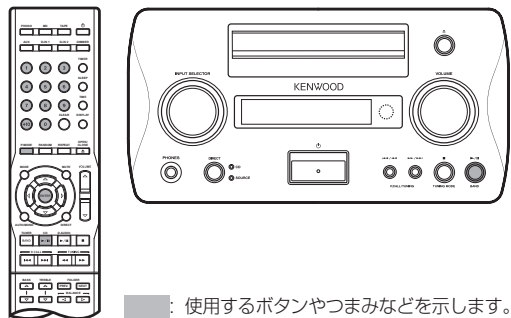
基本編

好きな曲順で再生する(プログラム再生)

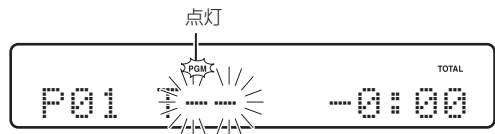
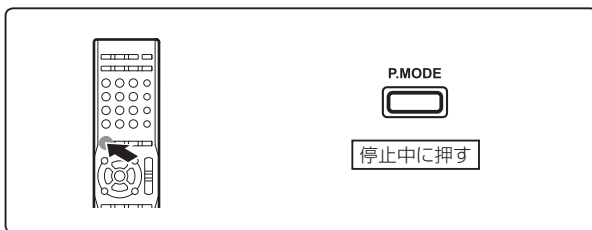
好きな曲を好きな曲順に聞くことができます。(最大32曲)

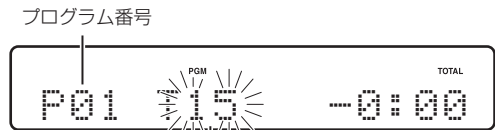
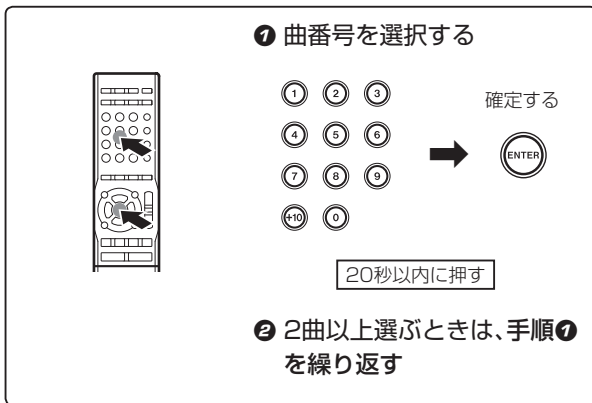
: 使用するボタンやつまみなどを示します。

準備しましょう

- ●トレイにディスクを入れる。
- ●入力切換を[**CD**]にする。

1 プログラム再生モードにする(停止状態にしてから行ってください)

点灯

P01 T-- --0:00

- [PGM(プログラム)]表示が点灯しているときに**P.MODE(プレイ モード)**ボタンを押すと、[**PGM(プログラム)**]表示は消灯します。

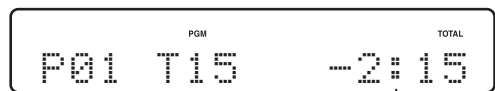
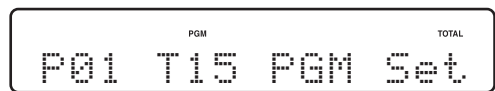
2 好きな曲をプログラムする

プログラム番号

プログラムに登録する曲番号

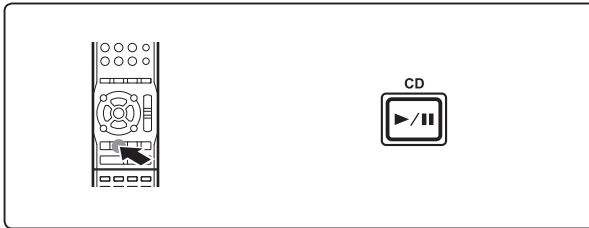
数字ボタンを押すとき:

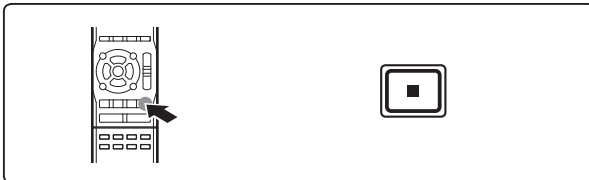
曲番が[15]のとき: [+10]、[5]

曲番が[20]のとき: [+10]、[+10]、[0]

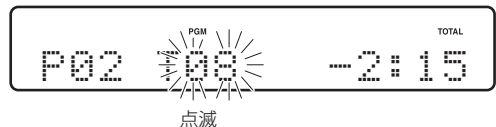
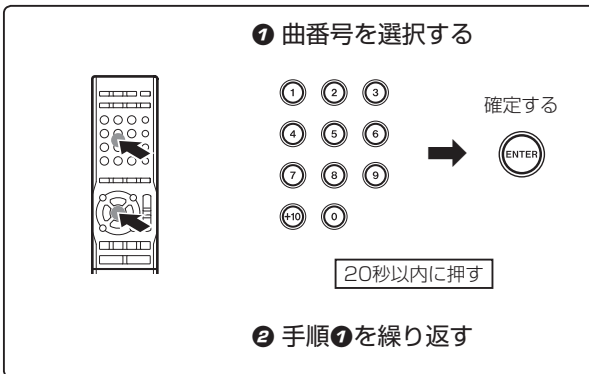
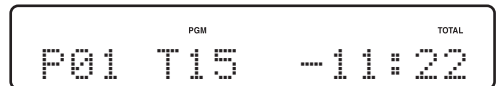
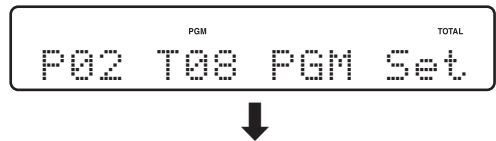
プログラムに登録した曲の合計時間

- 32曲まで選べます。[**Program(プログラム) full(フル)**]と表示されると、それ以上プログラムはできません。
- 間違えたときは、**CLEAR(クリア)**ボタンを押してから選び直します。
- プログラムした内容が1000分を超えると、時間表示が「-- : --」になります。

応用編

3 再生する

- プログラム順（P–番号順）に再生します。
- 再生中に⏮ボタンを1回押すと、その曲の最初に戻ります。前の曲へ飛び越しするときは、⏮ボタンを2回押します。
- 再生中に⏭ボタンを押すと次の曲へ飛び越して再生します。

再生を止める

- プログラムの内容は保持されています。

曲を追加する

点滅

- 再生中はプログラムに追加できません。

プログラムに登録した曲の合計時間

- 32曲まで選べます。[Program full（プログラム フル）]と表示されると、それ以上プログラムはできません。
- 間違えたときは、**CLEAR**（クリア）ボタンを押してから選び直します。
- 選んだ曲番号は、プログラムの最後に追加されます。

プログラムした曲を消す

後ろから順番に消去する

PGM
P02 PGM Clear

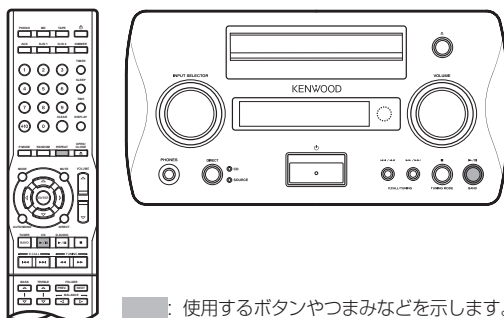
- **CLEAR**（クリア）ボタンを押すたびに最後の曲から1曲ずつ消去します。
- 再生中はプログラムした曲を消去できません。

すべて消去する

- 電源をオフ（スタンバイ状態）にしたり、CDトレイを開けると、プログラム再生モードが解除されます。このとき、プログラムの内容は消去されます。

繰り返し聞く（リピート再生）

準備しましょう

●トレイにディスクを入れる。
●入力切換を［**CD**］にする。

：使用するボタンやつまみなどを示します。

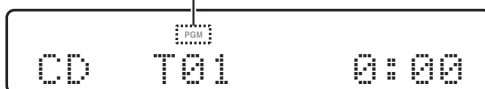
ディスクや曲を繰り返し聞く

❶［**PGM**］表示の消灯を確認する

● ［**PGM**］表示が点灯しているときは、停止中に**P.MODE**ボタンを押して消灯させてください。

消灯を確認する

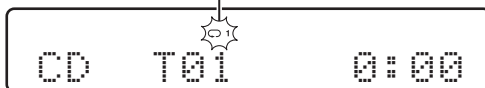
❷ **REPEAT**機能を選択する

REPEAT

押すたびに機能が切り換わります。

① ［⟲ 1］表示点灯：
1曲リピート再生
② ［⟲］表示点灯：
全曲リピート再生
③ **消灯：**
リピート解除

リピートがオンになると点灯

❸ 再生する

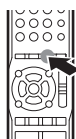
CD

● プログラム再生中やランダム再生中には、1曲リピート再生は選択できません。(P.30、P.33参照)
● 再生中に1曲リピート再生（［⟲ 1］表示点灯）にすると、その曲を繰り返し再生します。
● CDトレイを開けると、リピートが解除されます。

プログラム再生を繰り返し聞く

プログラムした曲全部を繰り返して再生します。

❶ 好きな曲をプログラムする
（30ページの手順❶、❷を行なう）

❷ **REPEAT**機能をオンにする

REPEAT

押すたびに機能が切り換わります。

① ［⟲］、［**PGM**］表示点灯：
プログラムリピート再生
② ［⟲］表示消灯：
リピート解除

❸ 再生する

CD

リピートがオンになると点灯

● CDトレイを開けると、リピートが解除されます。

応用編

順番にこだわらずに聞く(ランダム再生)

毎回曲がランダム(無作為)に選択されるので、長時間でも飽きることなく楽しめます。

: 使用するボタンやつまみなどを示します。

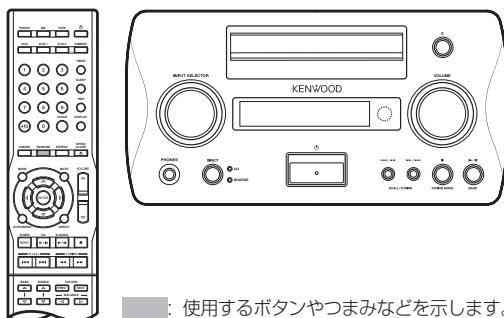
準備しましょう

●トレイにディスクを入れる。
●入力切換を[**CD**]にする。

1 [PGM]表示の消灯を確認する

● [**PGM**]表示が点灯しているときは、停止中に**P.MODE**ボタンを押して消灯させてください。

消灯を確認する

2 RANDOM機能をオンにする

押すたびに機能が切り換わります。

① [**RANDOM**]表示点灯:
ランダム再生
② [**RANDOM**]表示消灯:
ランダム解除

ランダムがオンになると点灯

点灯

● 1曲終わると次の曲を選んで再生します。
● 全曲の再生が1回終わると停止し、ランダム再生が解除されます。
● **REPEAT**ボタンを押すと、ランダム再生が繰り返されます。

曲の途中で別の曲を選択する

● |◄◄ボタンを1回押すと、再生している曲の最初に戻ります。

ランダム再生を止める

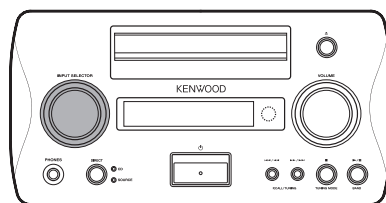
● **RANDOM**ボタンを押すと、曲番順の再生に戻り[**RANDOM**]表示が消灯します。
● ■ボタンを押しても、ランダム再生を解除できます。■ボタンで解除したときは、再生も停止します。

応用編

外部機器の入力レベルを調整する

[PHONO]、[MD]、[TAPE]や[AUX]それぞれのアナログ入力端子ごとに、接続した外部機器からの入力レベルを調整できます。CDと同じくらいの大きさで聞こえるよう必要に応じて調整ください。

準備しましょう

- 「外部機器（市販品）との接続」をお読みになり、あらかじめ接続を済ませてください。（P.12参照）
- 外部機器の電源をオンにする。

：使用するボタンやつまみなどを示します。

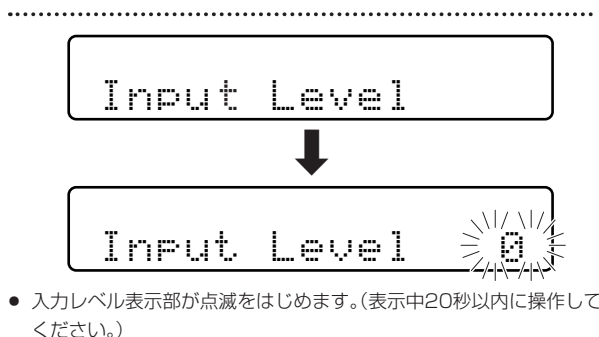
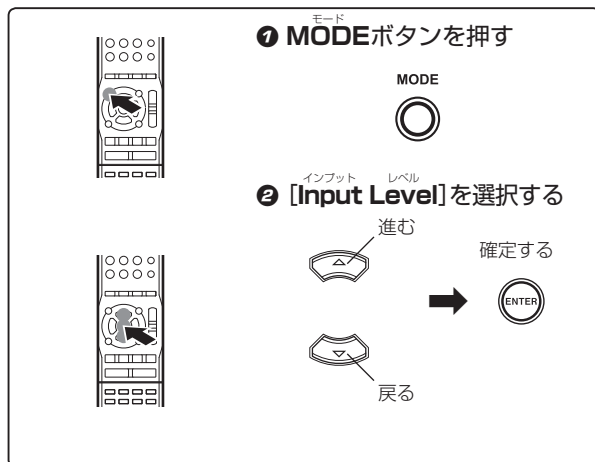
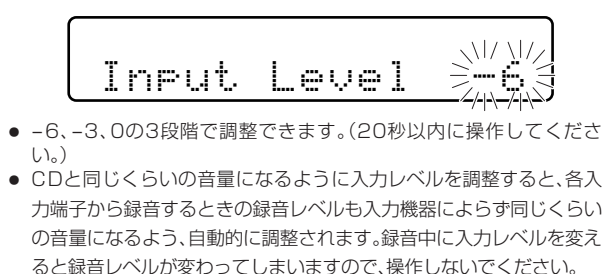
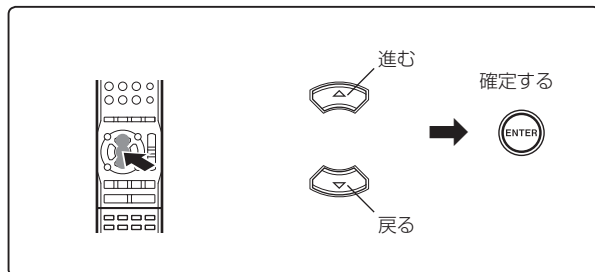
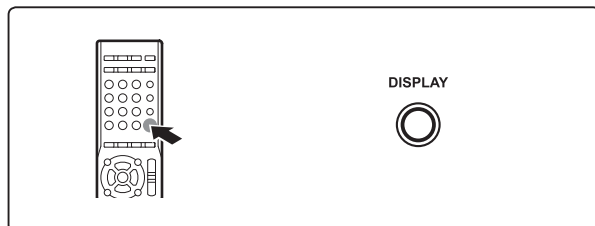
1 「基本的な使いかた」の手順❷まで操作して、[PHONO]、[MD]、[TAPE]または[AUX]を選択する（P.17参照）

2 入力レベル調整モードにする

- 入力レベル表示部が点滅をはじめます。（表示中20秒以内に操作してください。）

3 入力レベルを調整する

Input Level -6

- −6、−3、0の3段階で調整できます。（20秒以内に操作してください。）
- CDと同じくらいの音量になるように入力レベルを調整すると、各入力端子から録音するときの録音レベルも入力機器によらず同じくらいの音量になるよう、自動的に調整されます。録音中に入力レベルを変えると録音レベルが変わってしまいますので、操作しないでください。

ディスプレイを切り換える

押すたびに機能が切り換わります。

① 入力切換の表示
② 曜日と時刻の表示

タイマーを使う

タイマー機能を使って、目覚ましとして使えます。

プログラムタイマー

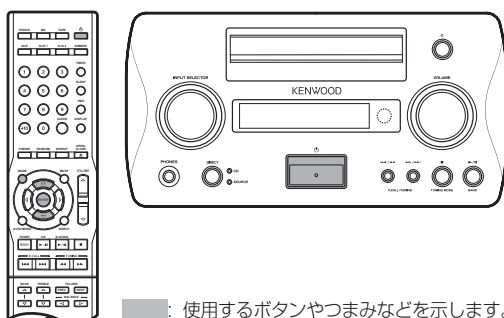
設定した時間帯に選んだソースを再生します。

おやすみタイマー(P.38参照)

設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れます。

：使用するボタンやつまみなどを示します。

準備しましょう

「**時刻合わせ**」をお読みになり、あらかじめ時刻合わせを済ませてください。(P.16参照)

プログラムタイマー予約をする

動作する時間帯や動作内容を一度設定すると、以後同じ内容のプログラムタイマーを繰り返して実行したり、動作の解除ができます。

- [**Program 1**]と[**Program 2**]の２系統に予約を設定できます。
- このときは、タイマー動作の時間帯が重ならないように１分以上の間隔をあけてください。

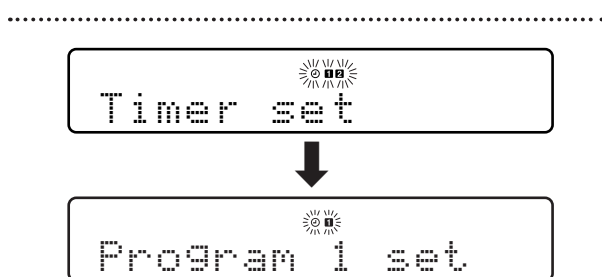
プログラムタイマーの予約が済んだら、電源をオフ(スタンバイ状態)にして、スタンバイ表示がオレンジ色に点灯していることを必ず確認してください。

1 聞くための準備をする

ラジオを聞く	CDを聞く
放送局を記憶させる ● 記憶させたプリセット番号で、ラジオ放送局を選局します。 「**放送局を自動で記憶させる(オートプリセット)**」(P.27参照) 「**放送局を1局ずつ記憶させる(マニュアルプリセット)**」(P.29参照)	ディスクを入れる(プログラム再生はできません。)(P.20参照)

2 タイマー予約モードにする

毎週金曜日の午前10:30から午前11:30まで、ラジオ放送を再生する内容のプログラムタイマーを、[Program 2]に予約するとき：

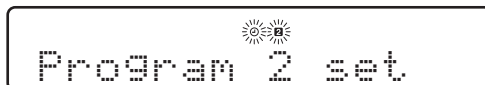
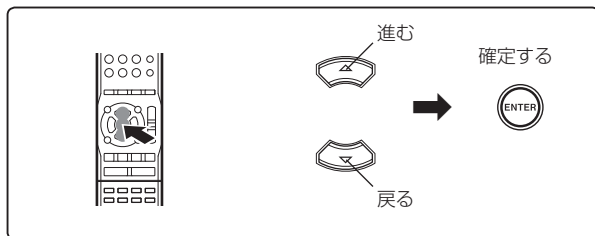
- すでに設定が済んでいるプログラムタイマーを選択したときは、設定内容が上書きされます。

3 予約先のプログラムタイマーの番号を選択する

押すたびに機能が切り換わります。

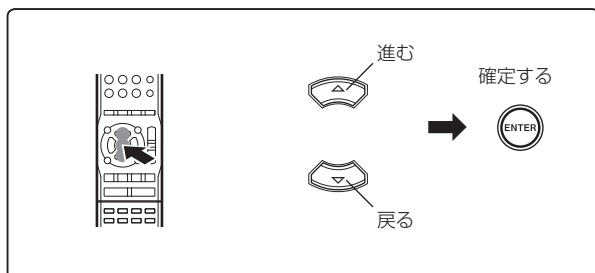
① [**Program 1 set**]：[ ]、[**1**]表示点滅
② [**Program 2 set**]：[ ]、[**2**]表示点滅

[**Program 2**]に予約するとき：

Program 2 set

応用編

4 プログラムタイマーのオン／オフを選択する

Program 2 on

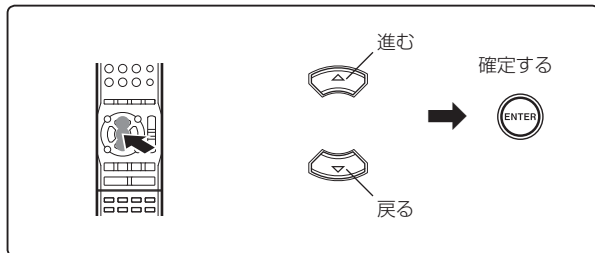
- [**Program 1 off**]または[**Program 2 off**]を選択すると、元の状態に戻ります。
- 間違えて**ENTER**ボタンを押したときは、マルチコントロール(◁)ボタンを押して1つ前の設定に戻り、設定内容を直します。

5 プログラムタイマーの実行曜日を選択する

押すたびに機能が切り換わります。

① [**Everyday**] ：毎日 ――― 解除するまで動作が続くタイマー
② [**Sunday**] ：日曜日
③ [**Monday**] ：月曜日
④ [**Tuesday**] ：火曜日
⑤ [**Wednesday**] ：水曜日
⑥ [**Thursday**] ：木曜日
⑦ [**Friday**] ：金曜日
⑧ [**Saturday**] ：土曜日
（②～⑧）毎週動作させるまたは1回動作させるかを選択します。**手順6へ**
⑨ [**Mon – Fri**] ：月曜日から金曜日
⑩ [**Tue – Sat**] ：火曜日から土曜日
⑪ [**Sat – Sun**] ：土曜日から日曜日
（⑨～⑪）解除するまで動作が続くタイマー

Friday

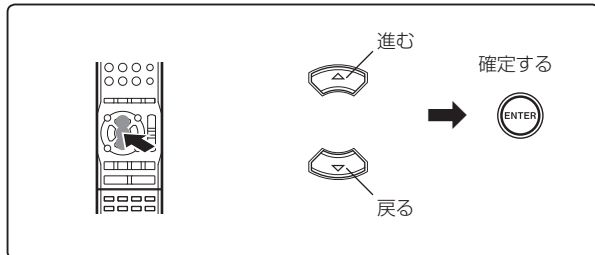
- 解除するまで動作が続くタイマーを選択したときは、手順7へ進みます。

6 プログラムタイマーの実行動作を選択する

押すたびに機能が切り換わります。

① [**Every week**]:
毎週タイマーが実行されます。
② [**Onetime**]:
タイマーが1度実行されるとタイマーオフ状態になります。

Every week

7 予約開始時刻／終了時刻を設定する

On Time 10:00am

- 予約開始時刻と終了時刻ともに、マルチコントロール(△、▽)ボタンで時を入力したあと、**ENTER**ボタンを押して確定します。同じ手順で分を入力します。

応用編

8 希望のタイマー予約を設定する

押すたびに機能が切り換わります。

① [**Play**]

手順8-❷で設定した音量で、タイマーが動作します。

② [**AI Play**]

手順8-❷で設定した音量まで、徐々に音量が上がりながらタイマーが動作します。

AI Play

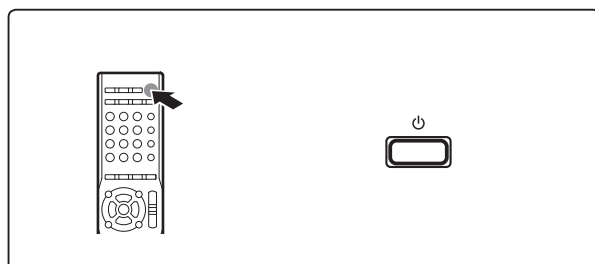
押すたびに機能が切り換わります。

① [**TUNER**]（ラジオ放送）

② [**CD**]

TUNER

- 記憶させたプリセット番号で、ラジオ放送局を選局します。「**放送局を自動で記憶させる（オートプリセット）**」（P.27参照）、「**放送局を1局ずつ記憶させる（マニュアルプリセット）**」（P.29参照）
- **ENTER**ボタンを押して設定が終了すると、[**Complete**]と表示されます。

9 電源をオフ（スタンバイ状態）にする

- 電源をオフ（スタンバイ状態）にすると、スタンバイ表示がオレンジ色に点灯し、プログラムタイマーが動作を開始します（タイマースタンバイ状態）。
- スタンバイ表示がオレンジ色に点滅しているときは、時刻合わせをしてください。（P.16参照）

プログラムタイマーを再予約／解除する

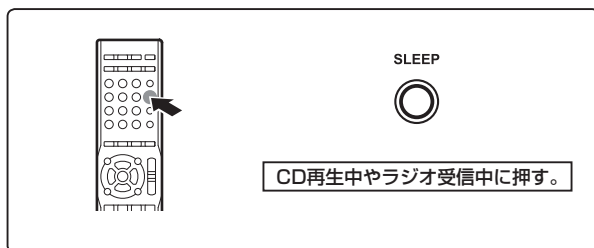
「**プログラムタイマーを予約する**」で設定した内容の再予約と動作解除ができます。(P.35参照)

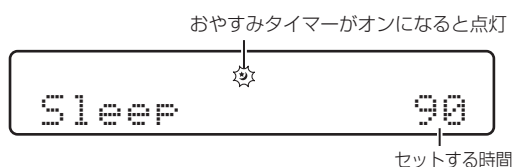
押すたびに機能が切り換わります。

① [◴][❶]表示点灯: [**Program 1**]のタイマーを動作させます。
② [◴][❷]点灯: [**Program 2**]のタイマーを動作させます。
③ [◴][❶][❷]点灯: [**Program 1**]と[**Program 2**]のタイマーを動作させます。
④ すべて消灯: プログラムタイマーの動作を解除します。

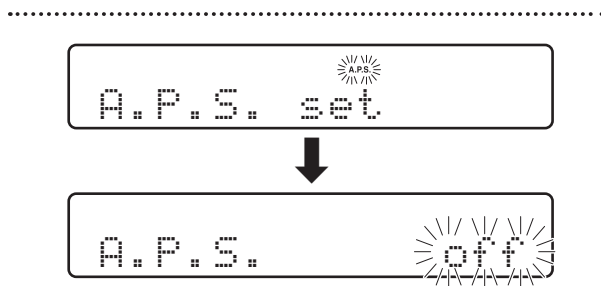
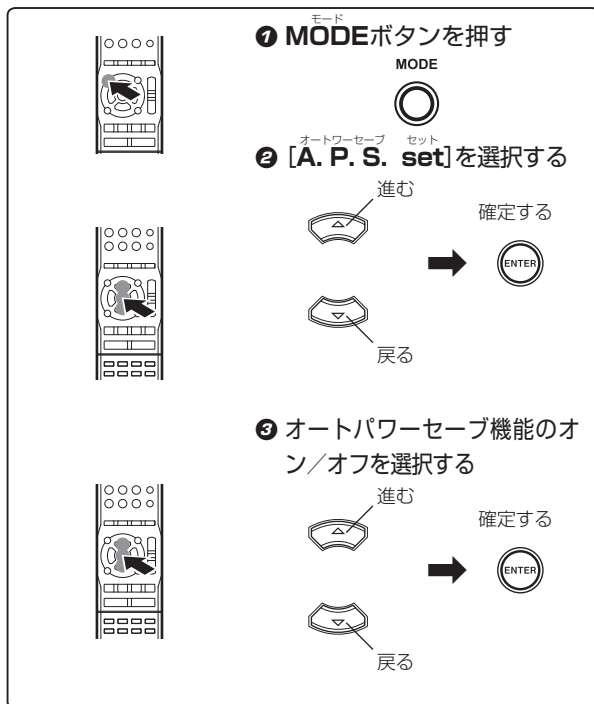
- プログラムタイマーの動作解除をしても、設定内容は記憶しています。

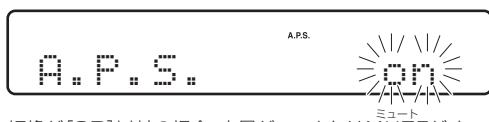
おやすみタイマーを設定する(SLEEP)

セットした時間が過ぎると自動的に電源がオフ(スタンバイ状態)になります。

押すたびに機能が切り換わります。

10 ➞ 20 ➞ 30 ..... 70 ➞ 80 ➞ 90 ➞ 解除 ➞ 10 ➞ 20 ....

- 1回押すごとに10分ずつ増えていきます。最大90分まで設定できます。
- 電源をオフ(スタンバイ状態)にすると、おやすみタイマーは解除されます。
- おやすみタイマーの動作中にSLEEPボタンを押すと、動作開始までの残り時間が確認できます。

オートパワーセーブ機能を使う(Auto Power Save: A.P.S.)

電源がオンで、CDが停止状態のときに、約30分間放置すると自動的に電源がオフ(スタンバイ状態)になる機能です。電源を切り忘れたときなどに便利です。

押すたびに機能が切り換わります。

① [A. P. S. on]: オートパワーセーブオン
② [A. P. S. off]: オートパワーセーブ解除

- 入力切換が[**CD**]以外の場合、音量が–∞またはMUTEがオンのときに限り働きます。

応用編

知っておきましょう

CDの取り扱い

ディスク取り扱上のご注意

再生面にふれないように持ってください。

本機で使用できるディスクについて

CD(12cm、8cm)、CD-R、CD-RW、CD-EXTRAの音声部分が再生できます。

CD-R/CD-RWディスクについて

レーベル面に印刷可能なCD-R、CD-RWを使用すると、レーベル面が貼り付いてディスクの取り出しができないことがあります。本機の故障の原因となるため、このようなディスクは使用しないでください。

CDディスクのご注意

のマークが入ったディスクをご使用ください。

このマークが入っていないディスクは正しく再生できない場合があります。

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。

円形以外の形をしたディスクは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

保管とお手入れ

本機の保管とお手入れ

■ 次のような場所に置かない

- 直射日光の当たる場所。
- 湿気やほこりの多い場所。
- 暖房器具の熱が直接当たる場所。

■ 結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴(露)が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。このようなときには、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋などでは、特に結露にご注意ください。

■ 汚れたら

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコール、接点復活剤などは変色、変形の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

ディスクの保管とお手入れ

■ 保管するときは

長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

■ 汚れたら

- ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。
- レコードクリーナーやシンナー、ベンジン、アルコールでふかないでください。
- ディスクアクセサリー(スタビライザー、保護シート、保護リングなど)およびレンズクリーナーは使わないでください。

■ その他お守りしていただきたいこと

- 鉛筆やボールペンなどで字を書かないでください。
- シールやラベルがはがれたり、のりがはみ出しているCDは使わないでください。
- 紙やシール、ラベルを貼らないでください。

輸送時または移動時のご注意

本機を輸送または、移動する場合は下記の操作を行ってください。

①ディスクを入れないで、電源をオンにする。
②ディスプレイに[**No Disc**(ノー ディスク)]と表示されたことを確認してください。
③数秒間待って電源をオフにします。

知識編

故障かな？と思ったら

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

マイコンをリセットする

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。
このときは、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントから抜き、本体の電源ボタンを押しながら、差し込み直す。

マイコンをリセットすると下記のディスプレイが表示されます。

Initialize

- CDのディスクが入ったままリセットすると自動的に排出されます。ディスクを取り出してからCDトレイを閉じてください。
- リセットにより各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　　状	対　　策
電源スイッチを押しても電源が入らない。	● 電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください。
音が出ない。	● 「**スピーカーの接続**」を読み、正しく接続し直してください。(P.10参照) ● 音量を最小にしているときは、ゆっくりとボリュームつまみを操作して適当な音量にしてださい。 ● MUTE(ミュート)機能を解除してください。(P.19参照) ● ヘッドホンが差し込まれているときはプラグを抜いてください。
スタンバイ表示が赤色に点滅し、音が出ない。	● スピーカーコードがショートし保護回路が作動しています。電源プラグをコンセントから抜き、電源を切ってからショートを取り除いてください。 ● 指定されたインピーダンスより小さいスピーカーを使用しているため、保護回路が作動しています。指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してださい。 ● 内部的な不具合が発生したと考えられます。電源を切り、電源プラグを抜いて修理をご依頼ください。
スタンバイ表示がオレンジ色に点滅する。	● 停電があったときや、電源プラグを抜いてしまったときには、現在時刻が工場出荷時の状態となります。「**時刻合わせ**」を読み、設定し直してください。(P.16参照) ● プログラムタイマーのオン時刻とオフ時刻が設定されていません。「**プログラムタイマー予約をする**」を読み、設定し直してください。(P.35参照)
ヘッドホンから音が出ない。	● ヘッドホンプラグが正しく差し込まれているか確認してください。(P.18参照) ● 音量を徐々に上げてください。(P.17参照) ● MUTE(ミュート)機能を解除してください。(P.19参照)
スピーカーの片側から音が出ない、または片側だけ音が小さい。	● 「**スピーカーの接続**」を読み、正しく接続し直してください。(P.10参照) ● 「**スピーカーバランスを調整する(BALANCE(バランス))**」を読み、スピーカーのバランスを調整し直してください。(P.19参照)
入力切換を[PHONO(フォノ)]にするとブーンという音が出る。	● オーディオコードが[**PHONO(フォノ)入力**]端子にしっかりと差し込まれているか、または信号用アース線が背面のマークの端子にしっかりと接続されているか確認してください。「**外部機器(市販品)の接続**」を読み、正しく接続し直してください。(P.12参照)
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。	● 停電があったときや、電源プラグを抜いてしまったときには、現在時刻が工場出荷時の状態となります。「**時刻合わせ**」を読み、設定し直してください。(P.16参照)
プログラムタイマーが作動しない。	● 停電があったときや、電源プラグを抜いてしまったときには、現在時刻が工場出荷時の状態となります。「**時刻合わせ**」を読み、設定し直してください。(P.16参照) ● プログラムタイマーのオン時刻とオフ時刻を設定していない。または、同時刻になっています。「**プログラムタイマー予約をする**」を読み、設定し直してください。(P.35参照) ● プログラムタイマーの実行指定をしていません。**TIMER(タイマー)**ボタンを押して実行指定してください。(P.38参照)

アンプ部(つづき)

症　　　状	対　　　策
録音した音が途切れる。	● 外部機器に録音しているときに、インプットレベルの調整(P.25、P.34参照)やソースダイレクトのオン／オフの切り換え(P.19参照)はしなでください。

チューナー部

症　　　状	対　　　策
放送局が受信できない。	● [**アンテナの接続**]を読み、正しく接続し直してください。(P.9参照) ● [**ラジオを受信する**]を読み、放送バンドをあわせてください。(P.26参照) ● [**ラジオを受信する**]を読み、受信したい放送局の周波数にあわせてください。(P.26参照)
雑音が入る。	● 外部アンテナを道路から離して設置してください。 ● 電気器具の電源を切ってください。 ● テレビやパソコンから離してください。
放送局をプリセットしたあと、P.CALLボタンを押しても受信できない。	● プリセットした放送局が、受信できない周波数です。 ● 入力切換を[**TUNER**]にしてください。

CDプレーヤー部

症　　　状	対　　　策
ディスクを入れても音が出ない。	● ラベル面を上にして、正しく入れてください。(P.20参照) ● [**ディスクの保管とお手入れ**]を読み、ディスクを清掃してください。(P.39参照) ● [**本機の保管とお手入れ**]を読み、露を蒸発させてください。(P.39参照)
音声が出ない。	● **CD ▶/⏸**ボタンを押して再生状態にしてください。 ● [**ディスクの保管とお手入れ**]を読み、ディスクを清掃してください。(P.39参照)
音とびがする。	● 振動のない場所に設置してください。 ● [**ディスクの保管とお手入れ**]を読み、ディスクを清掃してください。(P.39参照)

リモコン部

症　　　状	対　　　策
リモコンで操作できない。	● 新しい電池と交換してください。(P.15参照) ● リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作範囲内で操作してください。(P.15参照)

デジタルオーディオプレーヤーとの接続

症　　　状	対　　　策
デジタルオーディオリンク対応プレーヤーの操作ができない。	● 別売の専用ケーブル(PNC-150)が正しく差し込まれているか確認してください。(P.11参照)

メッセージ表示の一覧

ディスプレイ表示	意　　　味
[CD No Text]	● CD-TEXT情報がありません。
[CD PGM mode]	● PGMモードのときに、ランダム再生をしようとしています。
[Check Disc]	● TOC情報* を読むことができません。 ● ディスクが正しく挿入されていません。
[Non-PCM]	● 本機背面の[**デジタル(光)入力1**]端子または[**デジタル(同軸)入力2**]端子にPCM信号以外の信号が入力されています。
[Unlock]	● 本機背面の[**デジタル(光)入力1**]端子または[**デジタル(同軸)入力2**]端子に接続されている機器の電源が入っていません。または、信号が入力されていません。
[– – – kHz]	● 再生範囲外のサンプリング周波数のPCM信号が入力されています。

* CDには音楽信号以外にTOC(Table of Contents)という情報が記録されています。TOCとは本の目次に相当し、曲数や演奏時間、文字情報などのうち、書き直すことのできないものが入っています。

知識編

定格

アンプ部

定格出力 ....38 W + 38 W (20 Hz 〜 20 kHz, 0.07 %, 6 Ω)
45 W + 45 W (20 Hz 〜 20 kHz, 0.07 %, 4 Ω)
実用最大出力 ....55 W + 55 W（JEITA, 6 Ω）
70 W + 70 W（JEITA, 4 Ω）
全高調波ひずみ率..........0.015 % (20 Hz 〜 20 kHz, 10W, 6 Ω)
0.003 %（1 kHz, 10 W, 6 Ω）
周波数特性
LINE（AUX, MD, TAPE, D. AUDIO）
......................................5 Hz 〜 100 kHz (+ 0 dB 〜 – 3 dB)
イコライザ偏差 .... 20 Hz 〜 20 kHz (+ 1.0 dB 〜 – 1.0 dB)
最大許容入力電圧
PHONO (MM) ....50 mV (0.1 %)
SN比
PHONO (MM) ....95 dB（JEITA）
LINE（AUX, MD, TAPE, D. AUDIO）............105 dB（JEITA）
トーンコントロール特性
BASS ....± 4.0 dB（100 Hz）
TREBLE..± 4.0 dB（10 kHz）
入力端子（感度／インピーダンス）
PHONO (MM) .... 12 mV / 31 kΩ
LINE（AUX, MD, TAPE）............................ 520 mV / 100 kΩ
LINE（D. AUDIO）..................................... 265 mV / 100 kΩ
出力端子（レベル／インピーダンス）
MD, TAPE .... 520 mV / 200 Ω

デジタル部

対応サンプリング周波数
..........................32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
Supreme EX (CD, D-IN1, D-IN2)
再生可能周波数 .... 1 Hz 〜 40 kHz
入力端子（感度／インピーダンス／波長）
光（オプチカル）....– 15 dBm 〜 – 24 dBm, 660 nm ± 30 nm
同軸（コアキシャル）.....................................0.5 Vp-p / 75 Ω
出力端子（感度／インピーダンス／波長）
光（オプチカル）....– 21 dBm 〜 – 24 dBm, 660 nm ± 30 nm
同軸（コアキシャル）.....................................0.5 Vp-p / 75 Ω

CD部

読み取り方式............非接触光学式読み取り（半導体レーザー）
D/Aコンバーター...1ビット
オーバーサンプリング..................................8 fs（352.8 kHz）
周波数特性... 20 Hz 〜 20 kHz (JEITA)
SN比... 110 dB以上
ダイナミックレンジ ....100 dB以上 (JEITA)
チャンネルセパレーション .... 102 dB以上（1 kHz）(JEITA)

FM チューナー部

受信周波数範囲 .... 76 MHz 〜 90 MHz
アンテナインピーダンス......................................75 Ω 不平衡
実用感度（モノラル 75 Ω）.............................1.6 μV / 15.2 dBf
（75 kHz DEV. SINAD 30 dB）
高調波ひずみ率 (1 kHz)
モノラル .... 0.3 %
ステレオ .... 0.7 %
SN比
モノラル .... 75 dB（65 dBf 入力時）
ステレオ .... 68 dB（65 dBf 入力時）
ステレオセパレーション (1 kHz) ....36 dB
周波数特性 (30 Hz 〜 15 kHz)..................+ 0.5 dB 〜 – 3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 ....531 kHz 〜 1,629 kHz
実用感度 .... 18 μV /（600 μV/m）
(30% mod. S/N 20 dB)
SN比
モノラル .... 48 dB (30% mod. 1mV入力時)

電源部・その他

電源電圧・電源周波数 ....AC 100 V, 50 Hz/60 Hz
定格消費電力 (電気用品安全法に基づく表示)................ 120 W
待機時消費電力 ....0.1 W 以下
最大外形寸法.. 幅： 280 mm
高さ： 151 mm
奥行： 407 mm
質量 (重量)..9.6 kg (正味)

本製品は「JIS C61000-3-2」適合品です。

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

知識編

保証とアフターサービス(よくお読みください)

保証書

製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。(お問い合わせ先は「**ケンウッド全国サービス網**」(P.44参照)をご覧ください。)

補修用性能部品の保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は

「**故障かな?と思ったら…**」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービス窓口が修理をさせていただきます。修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理/持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号(Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)

技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。

部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

送　料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話(　　　　)　　-

ケンウッド全国サービス網

使いかたや製品に対するお問合せは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。
（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください） 2006年11月現在

北 海 道			
札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14-1-23	☎（011）743-7740
東 北			
仙台サービスセンター	〒984-0042	仙台市若林区大和町 5-32-12（サンライズ大和）	☎（022）284-1171
盛岡サービスステーション	〒020-0124	盛岡市厨川 4-5-11	☎（019）646-2311
関東・信越			
さいたまサービスセンター	〒331-0812	さいたま市大宮区土手町 1-2（JA 共済埼玉ビル 1F）	☎（048）647-6818
千葉サービスステーション	〒277-0081	柏市富里 1-2-1	☎（04）7163-1441
横浜サービスセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山 1-16-2	☎（045）939-6242
新潟サービスステーション	〒950-0923	新潟市姥ケ山 1-5-37	☎（025）287-7736
中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通 1-11	☎（052）917-2550
静岡サービスステーション	〒420-0816	静岡市葵区沓谷 5-61-1	☎（054）262-8700
松本サービスステーション	〒390-0832	松本市南松本 2-7-30（昭和ビル 2F）	☎（0263）26-7331
金沢サービスステーション	〒920-0036	金沢市元菊町 21-87（第 2 濱伍ビル 1F）	☎（076）265-5045
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北 2-1-22	☎（06）6394-8075
高松サービスステーション	〒760-0068	高松市松島町 3-1	☎（087）835-2413
中 国			
広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本 1-8-23	☎（082）832-2210
九 州			
福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野 2-8-18	☎（092）551-9755
鹿児島サービスステーション	〒890-0063	鹿児島市鴨池 2-15-10（パレス鴨池 1F）	☎（099）251-6347
沖縄サービスステーション	〒901-2101	浦添市西原 1-5-2	☎（098）874-9010

●ケンウッドサービス窓口 営業時間のご案内：
午前10 時から午後6時まで 月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝日及び当社休日を除く）

■ カスタマーサポートセンター

カスタマーサポートセンター
ナビダイヤル ☎ 0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP 電話からのご利用は ☎ (045) 933-5133
FAX (045) 933-5553
〒 226-8525 横浜市緑区白山1-16-2

●カスタマーサポートセンター 営業時間のご案内：
月曜～金曜 午前9 時30 分から午後6 時
土曜 午前9 時30 分から午後12 時、午後1 時から午後5 時30 分
（日曜、祝日及び当社休日を除く）

知識編

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation
〒 192-8525 東京都八王子市石川町 2967-3

大豆油インキを使用しています

古紙配合率100%再生紙を使用しています